

ASKUL

HAPPY OFFICE NETWORK SERVICE

<http://www.askul.co.jp>

Thanks for your order!

**ア ス ク ル
環 境 報 告 書**

2005年5月期

VOL.4

報告概要

1. 参考にした環境報告書ガイドライン

環境省 環境報告書作成基準(案)
環境省 環境報告書ガイドライン(2003年度版)
環境省 事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン
(2002年度版)

2. 対象年度

2004年5月21日～2005年5月20日
(報告書の表記は、「2005年5月期」とします。)
※従来はタイトルを年度(2004年度)で表記していましたが、
本誌より「2005年5月期」とし、わかりやすくしました。

3. 報告の範囲

事業活動全般と商品の生産活動を除く配送・サービス
提供の環境保全、改善の取り組み状況

4. 報告対象組織

本社オフィス及び物流センター(全国6ヶ所)の環境活
動の取り組み状況

5. 次回発行予定

2006年8月予定

報告対象期間外の 環境活動の表記について

上記に記載している環境報告書の報告対象期間を過
ぎた環境活動は、以下の内容を記載しています。

ページ数	活動日	内容
P.08	2005年6月	紙製品に関する調達方針
P.08	2005年6月15日	FSC(CoC)認証について
P.12	2005年6月	環境情報の発信
P.14	2005年5月27日	名古屋センター・本社オフィスの 一部のISO14001認証取得
P.14	2005年8月	名古屋センターの火災訓練
P.19	2005年6月15日 ～16日	廃棄物業者の現場確認
P.19	2005年7月11日	浄化槽の法定検査
P.19	2005年7月	家電リサイクル法の遵守状況

アスクルは、2005年5月期にお客様へ商品をお届けする際の梱
包材として多くのダンボールを使用しました。(P.25 資材投入
実績:ダンボール6,014.7t)

ダンボール排出量の削減と資源の有効利用の為に、アスクル
は商品をお届けする際の「簡易梱包」と「ダンボール回収」を
推進していきます。

ア ス ク ル 環 境 報 告 書

2005年5月期 VOL.4

■ トップメッセージ ■

お客様のために進化するアスクル

アスクル環境報告書2005年5月期(2004年5月21日～2005年5月20日)の発行にあたり、ご報告申し上げます。

1993年の事業スタート以来、アスクルは「お客様のために進化していく会社でありたい」という信念を抱いて、いつもその時々のお客様からの声に耳を傾けることで新しい商材やサービスを提供してまいりました。環境活動におきまして、お客様の潜在的なご要望に対して、いろいろな気づきの中でのご提案を行うことが、大変重要であると考えております。

事業活動において社会的な効率性を求められる中、流通段階のロスを除き、社会全体の合理性を追求した「社会最適」なビジネスモデルとして、現在の活動に至っています。



アスクル株式会社代表取締役社長 (CEO) 岩田 彰一郎

環境マネジメントシステムは「経営の基本」

地球規模における環境政策が展開されている今、2001年11日よりアスクルは社内の体制を整備して環境政策の取り組みを開始いたしました。まず、カタログの表記の見直しに始まり、全社的な環境活動の取り組みとして環境マネジメントシステムの構築を実施し、2004年3月にISO14001の認証を取得いたしました。現在は、「環境マネジメントシステムは環境にとどまらず、アスクルの経営の基本」であることを基本方針として体質化の必要性を説き、活動内容を概念(形)から気づき(魂)へと進化させていくことが経営の真髄であると考えています。また、説明責任の果たせる企業として自分たちが約束したことは自分たちで守っていき、活動内容の成果や課題を率直に社会に公表していくことの重要性を、ますます強く感じております。また、お客様からも環境への配慮を求める声を多く頂戴し、社内活動だけでなく、お客様に提供できる「環境」とは何かを常に考えた事業活動を推進していきます。

活動の要は「浸透と融合」

今年度の環境に対する取り組みは、ISO14001を浸透させるための社内定着化と、組織の環境ミッションと業務ミッションの融合を図り、環境と経営を融合させるという考えで活動いたしました。

社内定着化の第一歩として、環境マネジメントシステム体制を組織別の機能とテーマ別のタスクフォースの2本立てに変更し、環境意識の醸成に努めました。環境と経営の融合強化については、環境目標と業務課題を関連づけて部門間のコミュニケーション活動を活発に実施した結果、環境負荷低減だけでなく、コスト削減の効果の事例も見られました。特に、大量のオフィス用品を調達して、全国のお客様にお届けする業態特性から見て、商品面・物流面での環境負荷低減への取り組みは必至であり、さらなる業務効率・輸送効率の向上が環境効率に寄与すると考えています。しかし、一方では社内運用管理を重視した目標の設定を行いました、全社活動として目標未達成の事項もあり、全社横断型で分析・検証できる仕組みを強化することが次の課題となりました。

今後も企業としての成長性を継続しながら、環境マネジメントシステムを通して信頼性や透明性を高めていき、お客様をはじめ、関係者の皆様と「環境パートナーシップ」を築く企業をめざしてまいります。どうぞ、これからも引き続きご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

2005年5月期の活動骨子

1. アスクルブランドのコピーペーパーの「原材料トレーサビリティ調査」を実施し「紙製品に関する調査方針」を制定しました。(P.08)
2004年10月よりアスクルブランドのコピーペーパー全7シリーズについての「原材料トレーサビリティ調査」を製造元である製紙会社に対して行っており、2005年1月時点で7シリーズすべての調査を完了しています。あわせて、この調査結果をベースに製紙会社各社と協議を重ね、2005年1月より、順次、同調達方針に該当する原材料への切り替えを推進しています。
なお、「紙製品に関する調査方針」は、2004年11月に制定し、2005年6月に改訂・開示いたしました。
2. 「GPNデータベース掲載商品」を、環境ラベルとして採用しました。(P.10)
「グリーン購入法」と「エコマーク」の2つの環境ラベルに加え、「GPNデータベース掲載商品」を3つめの環境ラベルとして採用しグリーン商品のカタログ掲載品目数を増加しました。

3. 回収の対象エリアと対象物を拡大しました。(P.11)
2002年に開始したカタログ回収は、回収対象エリアを全国の当日配送エリアに拡大し、今期はダンボールを回収対象物として拡大いたしました。
4. 環境コミュニケーションを推進しました。(P.13)
アスクルの事業のパートナーであるエーエージェント様(アスクル取扱販売店)、サプライヤー様に対してアスクル環境報告書を送付し、環境に関する取り組みの姿勢をお伝えいたしました。
また、エーエージェント様との情報交換システムを構築し、使用する紙を低減しました。
5. ISO14001の定期審査とサイト拡大を実施しました。(P.14)
2005年4月にISO14001の定期審査及びサイト拡大審査を行いました。
拡大サイトは、本社機能の一部と名古屋センターです。登録範囲の拡大に伴い、登録証は2005年5月27日に改訂されました。

今後の取り組みとアスクルの環境政策

- アスクルの事業活動を通じて、排出物の全体的な削減に取り組んでまいります。
- 前期に引き続いて、環境マネジメントシステムの社内定着化を推進します。
- e-プラットフォーム化によってエーエージェント様(アスクル取扱販売店)やサプライヤー様とのコミュニケーションによる紙の削減を推進いたします。
- 紙の環境負荷低減対策として、紙製品の環境配慮をさらに推進いたします。

環境方針

アスクル環境方針

環境宣言

我々は、「お客様のために進化するアスクル」を経営理念に掲げ、お客様、株主様、お取引先様、環境NGO・NPOなどの全てのステークホルダーに対して真摯に接し、21世紀が求める最もロ・コストで、最も環境に配慮した流通プラットフォームの実現を目指します。

環境方針

我々は、事業活動の全領域において環境汚染の予防に努め、継続的改善を目指します。具体的には、以下の項目についての中長期的な目的・目標をたて、ステークホルダーから頂戴する貴重なご意見を積極的に採り入れ、毎年見直しを行い改善していきます。

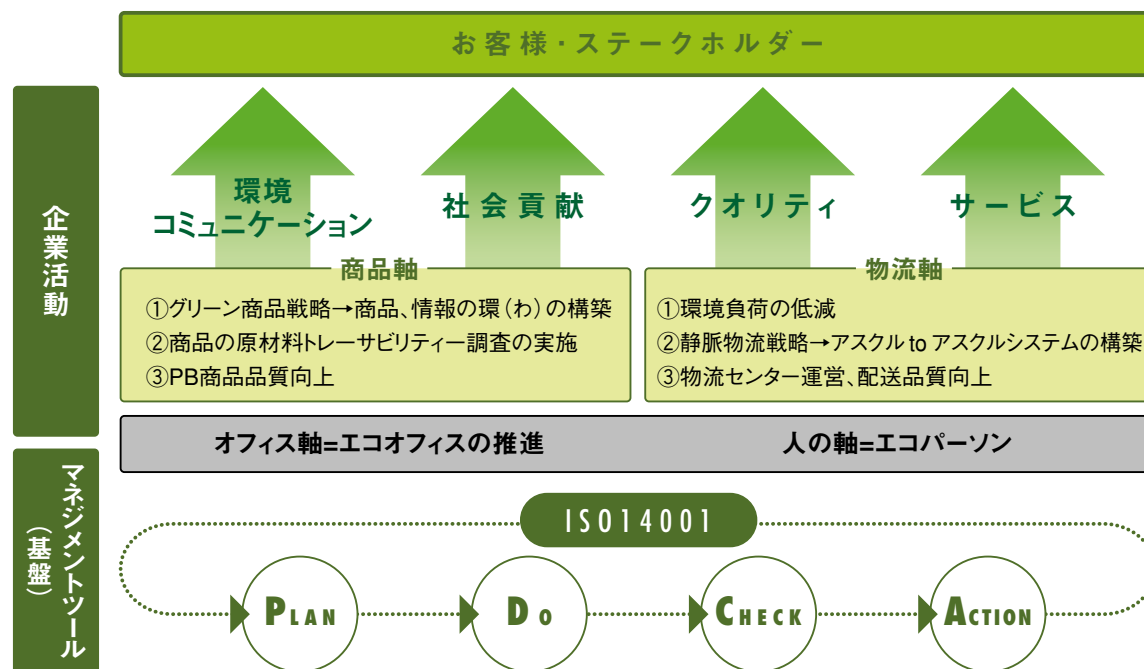
- ① 省資源・リサイクルの推進
- ② 地球温暖化防止の推進
- ③ 環境に配慮した商品・サービスの開発・拡大
- ④ 紙の環境負荷低減への取り組み
- ⑤ 環境コミュニケーションの推進

また、国や地方自治体などで定めている環境に関する法律・条例、ならびに我々が受け入れを決めたその他の要求事項を確実に遵守します。
アスクル環境方針は積極的に社内外に公表し、アスクルにおける環境保全活動実績は、毎年「環境報告書」にて報告します。

2003年6月4日制定
アスクル株式会社CEO 岩田 彰一郎

※ステークホルダー:お客様・株主様・お取引先様などのアスクルを取り巻く全ての利害関係者
※流通プラットフォーム:お客様やお取引先様との情報のやり取りをする仕組みや、商品をお届けする仕組みなど、アスクルの事業活動を支える基盤

環境マネジメントシステムを基盤としたアスクルビジネスの提供



企業概要

会社概要 (2005年5月期末現在)

創 立 1997年5月21日
 本社住所 〒135-0053 東京都江東区辰巳3-10-1
 電話番号 03-3522-8500
 U R L http://www.askul.co.jp/
 資 本 金 32億9,171万円
 売 上 額 1,446億円
 経常利益 77億2,900万円
 従業員数 277名

主な事業内容

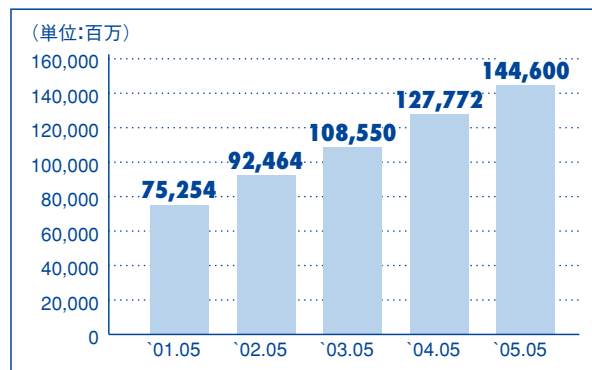
下記商品およびサービスにおける通信販売事業

文房具、事務用品、オフィス家具、什器備品、インテリア用品、
 コンピュータおよび周辺機器、ソフトウェア、書籍、食料品、日
 用雑貨品、衛生用品（医薬品および医療用具を除く）、介護
 用品、清涼飲料水、衣料品、家庭用電化製品、名刺および封
 筒の印刷作成、伝票等の名入れサービス、オフィスレイアウト

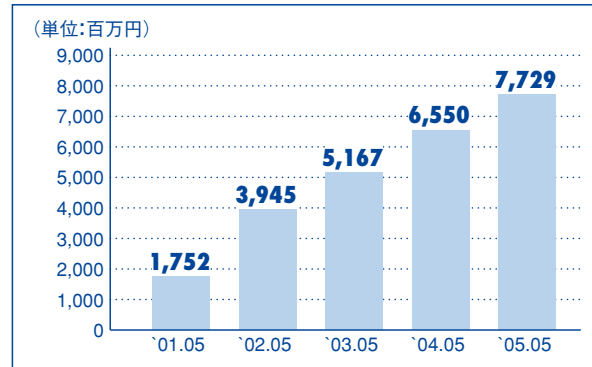
従業員の状況 (2005年5月期末現在)

区分	人数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男性	190名	20名増	41.2歳	3.16年
女性	87名	7名増	35.7歳	3.16年
合計 または平均	277名	27名増	39.5歳	3.16年

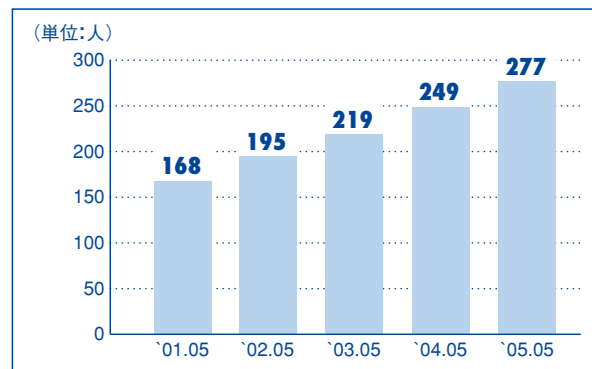
売上高



経常利益



従業員数



事業所 (2005年5月期末現在)

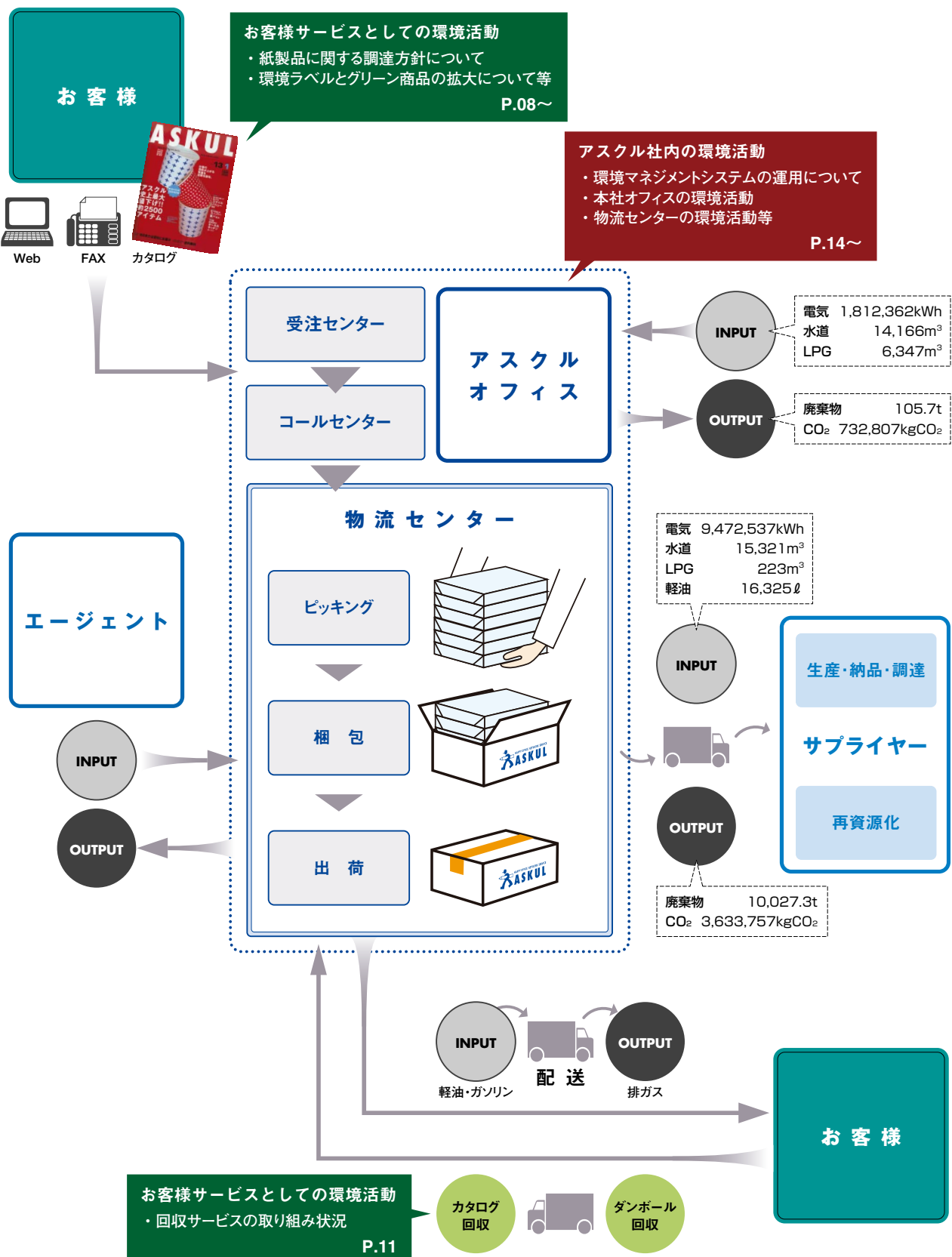
事業所名	住所	連絡先の電話番号	構成員 (従業員含む)
本社 (e-tailing center)	東京都江東区辰巳3-10-1	03-3522-8500	2,300名
仙台センター	宮城県仙台市宮城野区港4-1-2	022-388-7681	
DCMセンター	東京都江東区青海2-7	03-3599-7503	
横浜センター	神奈川県川崎市川崎区水江町5-1	044-280-3571	
名古屋センター	愛知県東海市名和町三ノ上13-1	052-689-2100	
大阪センター	大阪府大阪市住之江区南港中6-6-23	06-6616-6811	
福岡センター	福岡県糟屋郡粕屋町大字阿恵347-1	092-626-2161	

トピックス

2004年9月21日より、アスクル名古屋センターの稼働を開始いたしました。高効率の空調機器の採用、省エネ型照明器具や消灯スイッチのブロック管理、熱損失防止型の外壁や窓の採用、アイドリングストップ促進のためのドライバー待機室の設置等、各方面で環境配慮型の設計をいたしました。

アスクルの事業概要と環境負荷

アスクルは、中小事業所を主な販売対象として、ファクシミリおよびインターネット経由の注文によるオフィス関連用品（約19,000アイテム）の翌日配送（一部当日）サービスを行っています。アスクルとお客様の間にエージェント（アスクル取扱販売店）を置き、お客様開拓、代金回収および債権管理の機能を担当しています。サービスエリアは全国（沖縄・離島および一部のエリアを除く）で翌日配送を行っていますが、物流センターの周辺地域は当日配送を、北海道地域の一部は翌々日配送で対応しています。アスクルは、流通段階のロスを排除し、社会全体としての合理性を追求したビジネスモデルを展開しています。



2005年5月期（2004年5月21日～2005年5月20日）の環境目標の達成状況

評価基準は、以下の通りです。

◎：目標達成!! ×：未達成 人：定性目標に対して活動しています

環境方針 省資源・リサイクルの推進

環境目的 (2006年5月期までの目的)	環境目標 (2005年5月期)	実績内容	掲載ページ	評価
本社オフィスにおいて、「リサイクル100%オフィス」の実現をめざします。	本社オフィスの排出物のリサイクル率を85%以上にします。	リサイクル率の年間平均は86%で達成	本社オフィスの環境活動 ⇒ P.20参照	◎
各物流センターにおいて、「リサイクル100%物流センター」の実現をめざします。	各物流センターの排出物のリサイクル率を98%以上にします。 (ただし、仙台センターのみ68%以上)	リサイクル率の年間平均は98%で達成 (ただし、仙台センターは、64.7%)	物流センターの環境活動 ⇒ P.21参照	◎ ×
社内消耗品のグリーン購入を推進します。	社内消耗品のグリーン購入率を50%以上にします。	グリーン購入率の年間平均は41%	本社オフィスの環境活動 ⇒ P.21参照	×

環境方針 地球温暖化防止の推進

環境目的 (2006年5月期までの目的)	環境目標 (2005年5月期)	実績内容	掲載ページ	評価
オフィスの省エネルギー化を推進することで、温室効果ガスの排出量抑制に取り組みます。	本社オフィスの年間電力使用量を、原単位で対前年比1%削減します。	削減量の年間平均は、目標に対して5%増	本社オフィスの環境活動 ⇒ P.20参照	×
各物流センターの省エネルギー化を推進することで、温室効果ガスの排出抑制に取り組みます。	各物流センターにおける電力使用量を、原単位で対前年比5%削減します。	削減量の年間平均は、目標に対して15%増	物流センターの環境活動 ⇒ P.21参照	×

環境方針 環境に配慮した商品・サービスの開発・拡大

環境目的 (2006年5月期までの目的)	環境目標 (2005年5月期)	実績内容	掲載ページ	評価
カタログ回収システムの改善並びに回収量の拡大をめざします。	使用済みカタログの通期回収量を、対前年比5%増をめざします。 また、使用済みダンボールの通期回収量を、対前年比20%増をめざします。	カタログ回収は、対前年比54%増 ダンボールの通期回収量は、目標の80%	回収サービスの取り組み状況 ⇒ P.11参照	◎ ×
インターネット受注率の拡大に伴う環境負荷削減をめざします。	インターネット受注率を、アスクルの受注の45%まで拡大します。	受注率は2005年5月度で44.6%	本社オフィスの環境活動 ⇒ P.21参照	×

環境方針 紙の環境負荷低減への取り組み

環境目的 (2006年5月期までの目的)	環境目標 (2005年5月期)	実績内容	掲載ページ	評価
コピーペーパー等の使用量削減をめざします。	上期中に辰巳オフィス内の各機能へのヒアリングを行い、PPC用紙削減施策を検討・実行します。下期には、削減目標を原単位で掲げ、引き続き削減施策を推進することで、目標達成をめざします。	コピーペーパーの使用実績は、対前年比3.5%増	コピーペーパーの使用量について ⇒ P.20参照	×
販促印刷物の適正管理を推進し、廃棄部数の削減をめざします。	上期中に販促印刷物の廃棄物の現状把握並びに削減施策を検討・実行します。下期には、販促印刷物の廃棄物に対する目標値を設定し、達成をめざします。	販促印刷物の適正管理手順を作成し、削減活動に着手	販促物の適正管理について ⇒ P.20参照	人
紙製品の原料において、環境負荷の少ない原料構成を検討し、実現をめざします。	アスクルオリジナルコピーペーパーの原材料についてのトレーサビリティ調査を行い、「紙製品に関する調達方針」ならびに「年間計画」を策定し、調達方針に沿った製品調達を実施します。	「紙製品に関する調達方針」を策定、アスクルオリジナルコピーペーパーのトレーサビリティ調査を実施	紙製品に関する調達方針について ⇒ P.08参照	◎

環境方針 環境コミュニケーションの推進

環境目的 (2006年5月期までの目的)	環境目標 (2005年5月期)	実績内容	掲載ページ	評価
社内環境教育の推進	本社オフィス周辺の清掃美化活動を、年8回以上行います。	11回の実施で、131名参加	アスクル清掃活動について ⇒ P.19参照	◎
サプライチェーン	サプライヤー様を選定する際、「環境への取り組み状況」の視点を盛り込み、「サプライヤー選定基準」として取りまとめを行います。	アスクルの環境に対する考え方をご理解いただくため、サプライヤー様に「アスクル環境報告書」を送付	環境コミュニケーション ⇒ P.13参照	人

紙製品に関する調達方針について

調達方針の策定・公開

森林資源の減少については、地球環境保全の意識が世界的に高まる中で、国際政治の場でも主要な課題として討議され、行政、企業、市民による積極的な参加が求められています。アスクルでは、こうした時代の要請に応えるべく、「販売者としての責任」と「森林資源保全」の観点から、企業行動の第一歩として「紙製品に関する調達方針」を策定し、公開しています。同調達方針は、「アスクル環境方針」の重点施策のひとつである「紙の環境負荷低減への取り組み」に則っており、アスクルとして紙製品の調達に関する基本的な姿勢を社外に表明することで、同調達方針に基づいた「グリーン調達」を推進し、国内外のサプライヤーに対してよりいっそう環境に配慮した原材料の使用を求めていくものです。

「トレーサビリティ調査」と「グリーン調達」

アスクルでは2004年10月より、アスクルブランドのコピーペーパー全7シリーズについての「原材料トレーサビリティ調査」を製造元である製紙会社に対し行い、2005年1月時点で7シリーズすべての調査を完了しています。あわせて、この調査結果をベースに製紙会社各社と協議を重ね、2005年1月より、順次、下記調達方針に該当する原材料への切り替えを行うことによる「グリーン調達」を推進しています。今後も継続して、アスクルブランドのコピーペーパーへの取り組みを行っていくと共に、その他のアスクルブランドの紙製品についても順次展開していきます。



紙製品に関する調達方針

アスクル株式会社は、トータル・オフィス・サポートサービスの会社として、「販売者としての責任」と「森林資源保全」の観点から、「植林パルプや認証林パルプを有効に利用する“森のリサイクル”」と「古紙の利用を積極的に進める“紙のリサイクル”」の両立を目指します。また、以下を「紙製品に関する調達方針」として掲げ、望ましい紙資源のあり方を実現するために、継続的な取り組みを進めていきます。

調達方針

アスクル株式会社は、取り扱う紙製品の原料について、下記のことを優先的に調達していきます。

- 古紙や廃材などを有効利用して得られた「リサイクルパルプ」
- 森林認証制度により適切に管理されていることが認証されたパルプ
- 適切に管理された二次林または植林パルプ

制定：2004年11月
改訂：2005年 6月
アスクル株式会社

※「紙製品に関する調達方針」並びに「トレーサビリティ調査票」、「原材料調査確認票」は、WWFジャパンのアドバイスを参考に策定しています。
※「紙製品に関する調達方針」の「用語の定義」については、グリーン購入ネットワークのガイドラインなどを参考に策定しています。
※「紙製品に関する調達方針」の「用語の定義」については、<https://www.askul.co.jp/kaisya/kankyo/paper.html>をご覧ください。

FSC (CoC) 認証取得について

FSC (CoC) 認証を取得しました

アスクルでは、環境保護活動の一環として、FSC (森林管理協議会/Forest Stewardship Council) のCoC認証(加工・流通過程の管理の認証/Chain-of-Custody)を2005年6月15日に認証取得しました。

- 登録番号 ▶ SGS-COC-2154
- 認証取得日 ▶ 2005年6月15日
- 登録範囲 ▶ パーセンテージ認証された紙の仕入れ、保管、及び販売
- 審査登録機関 ▶ SGSジャパン株式会社



FSC Trademark ©1996
Forest Stewardship Council A.C.

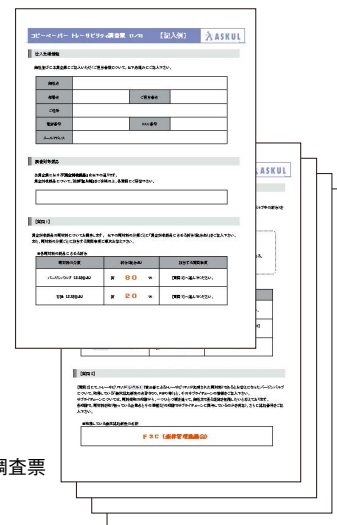
※FSC認証とは:
自然破壊に配慮し、社会的利益にかなうよう、環境、社会、経済面から適正に管理された森林である「FSC認証森林」から伐採された木材から製品が作られ、お客様のもとまで届けられていることを第三者機関が確認、認証する制度。

コピーペーパーのグリーン調達

製紙会社とのPDCAサイクル

アスクルでは、製紙会社の協力のもと、コピーペーパーのグリーン調達の取り組みを行ってきました。

アスクルでは、どのような原材料が使われているのかを正確に把握し、お客様に安心してご購入いただけるよう、製造元である製紙会社各社と協力し「原材料トレーサビリティ調査」についてPDCAサイクルを回しています。



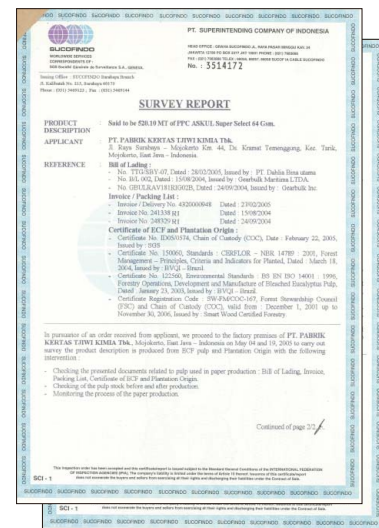
トレーサビリティ調査票

森林管理問題解決への取り組み

インドネシア現地製紙会社との取り組み

アスクルでは、「環境報告書2004年度版 vol.3 P.24」にてご報告させていただいたとおり、スマトラ島の熱帯雨林の保全について、インドネシア現地製紙会社に対して環境への取り組みを促進するよう働きかけを行ってきました。

本年度も引き続き、現地製紙会社に対し環境への取り組みを促すとともに、「紙製品に関する調達方針」を提示しました。この提示により、2005年1月からインドネシアで生産されるアスクルオリジナルブランドのコピーペーパーは、生産工場の変更ならびに原材料を植林木パルプに切り替えて生産しています。さらにインドネシアの現地製紙会社において、第三者機関による原材料使用状況の確認を定期的に行うことで、より信頼性の高い確認を実施しています。

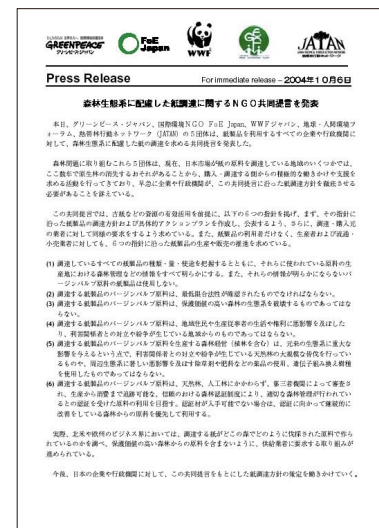


第三者機関による原材料の使用証明書

NGO 5団体の共同提言

2004年10月には、国内の環境NGO 5団体(グリーンピース・ジャパン、国際環境NGO FoE Japan、WWFジャパン、地球・人間環境フォーラム、熱帯林行動ネットワーク)より「森林生態系に配慮した紙調達に関するNGO共同提言」が発表されました。

この共同提言では、紙製品の利用者だけでなく、生産者及び流通・小売業に対しても、指針に沿った紙製品の生産や販売を求めています。アスクルとしては、このNGOの見解を支持し、本年度も継続して、責任ある林産物の購入を推進していきます。



共同提言リリース

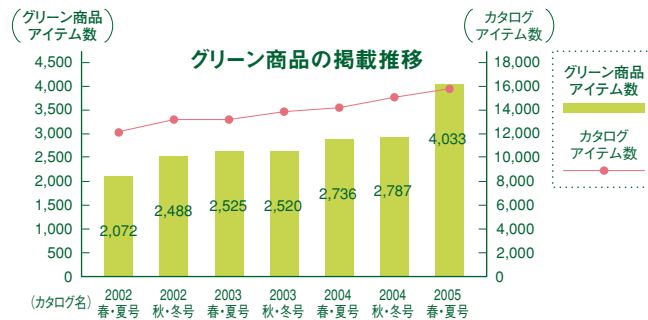
- 1 トップメッセージ
 - 2 アピックス
 - 3 お客様サービスとしての環境活動
 - 4 お取引先様への環境活動
 - 5 アスクル社内の環境活動
 - 6 データ集
 - 7 環境報告書 第三者審査
 - 8 アスクル環境マニフェスト 活動の足跡
- 巻末 アンケート結果のご報告

環境ラベルとグリーン商品の拡大について

アスクルは、グリーン商品の定義として3つの環境ラベルを採用しています。
お客様が商品をご購入する際、グリーン商品の情報をカタログやインターネットにてご提供しています。
ご購入後の実績も請求書やインターネットにてご提供しています。

グリーン商品の品目数の推移

「グリーン商品の品目数を増やしてほしい」というお客様の声におこたえて、「GPNデータベース掲載商品」をアスクルのグリーン商品の定義に追加して、2005春・夏号カタログでは、1,246アイテム増加の4,033アイテムを掲載しています。特に商品カテゴリーとしては、タックラベルやネーム印などのカテゴリーが増えたため商品選択の幅も広がり、お客様のグリーン購入の推進によりいっそうお役立ていただけるようになりました。



グリーン購入サポート：商品選択

1. アスクルカタログ

下記3つの環境ラベルのいずれかに該当することが確認できた商品は「グリーン商品リスト掲載品マーク」をつけています。(2005春・夏号カタログ)



2. インターネット

アスクル・インターネットショップに「グリーン商品ショップ」を設けており、グリーン商品だけを購入したい場合や、グリーン商品検索、グリーン商品リストのダウンロードなどのサービスを提供しています。グリーン商品リストでは、商品の環境ラベル適合状況や環境への配慮情報をご確認いただけます。



グリーン購入サポート：実績報告

1. 請求書

表面のご利用商品の明細にグリーン商品リスト掲載品には「*」を表示しています。また、裏面には当月購入いただいた商品の合計金額とグリーン商品の購入金額(税込)を表示しています。

品名	数量	単価(円)	税込金額(円)	備考	緑マーク
MAX マックス ホッチキス HD-10NX	20	3,030	3,030		5.0*
MAX マックス ホッチキス HD-10NX	20	3,030	3,030		5.0*
合計	40	3,334	7,372	税別	

2. インターネット

「グリーン商品ご利用実績ダウンロード」で、ご購入いただいたグリーン商品リスト掲載品の実績を「グリーン商品ショップ」からダウンロードできます。最大で過去90日間の実績をダウンロードでき、データは予算管理や実績集計としてご利用いただくことができます。

アスクルの採用している環境ラベル

グリーン購入法	グリーン購入法の正式名称は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」で、環境負荷の少ない商品の購入と情報提供を通じた持続的発展が可能な社会の構築を目的とし、2000年5月公布(2001年4月施行)されました。グリーン購入法適合商品とは、グリーン購入法の第6条に基づく基本方針に定められた品目およびその判断基準に合致した商品です。 URL: http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/index.html
エコマーク	エコマークは、私たちのまわりにあるさまざまな商品の中で、環境負荷が少ないなど環境保全に役立つと認められる商品につけられるマークです。消費者のみならず、暮らしと環境の関わりを考えたり、環境にやさしい商品選択に役立てていただくことを目的としています。エコマーク事業は(財)日本環境協会が実施している事業で、1989年にスタートしました。 URL: http://www.ecomark.jp/
GPNデータベース	グリーン購入ネットワーク(GPN)が運営する「グリーン購入のためのGPNデータベース」に掲載されている商品です。GPNデータベースではグリーン購入の推進に役立つように、GPNのグリーン購入ガイドラインに則した項目に関する製品の環境情報、価格、基本性能などについて、製品の画像とともに詳細な情報を提供しています。GPNデータベースへの掲載は、製造業者などの情報提供者が購入ガイドラインに沿って自らの判断で選んで登録したもので、GPNが掲載商品を推奨するものではありません。 URL: http://www.gpn.jp/

回収サービスの取り組み状況

アスクルの回収サービスは、カタログやダンボールも実施しています。回収物はできるだけリサイクルして、環境負荷の低減に努めています。カタログやダンボールについては、今後も回収率を高めてまいります。

アスクルの回収サービス

アスクルの回収サービスは、1997年3月より使用済みトナーカートリッジの回収、1998年より使用済みラベルライターテープカートリッジの回収を開始いたしました。その後も2002年9月より東京23区限定でカタログ回収サービスを開始、2005年3月にダンボール回収を本格的に稼働いたしました。回収したカタログの一部はリサイクル材料として再生利用しています。ダンボールは社会リサイクルスキームにて有効に活用させていただいています。今後はさらに回収率の向上をめざした対策を講じてまいります。

使用済みラベルライターテープカートリッジ回収方法

50個以上の使用済みカートリッジがたまりましたら、アスクル横浜センターにご送付いただけます。

※メーカーにより、一部回収方法が異なります。
※詳しい回収方法は、2005春・夏号カタログのP.792、P.797、P.799に掲載しています。

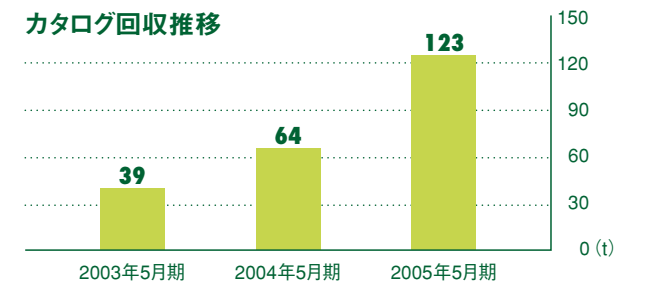


カタログ、ダンボール回収について

- 回収対象地域 当日配送エリア
- 回収対象物 アスクルダンボール/アスクルの荷札付ダンボール(緩衝材・ポリ袋は対象外)
アスクルカタログ/アスクル メディカル&ケアカタログ
- 回収方法 商品をお届けに伺ったドライバーに直接お渡しください。
ご不要になったアスクルダンボール・古いカタログを回収させていただきます。

※詳しい回収方法は、2005年春・夏号カタログのP.1131に掲載しています。

カタログの回収状況

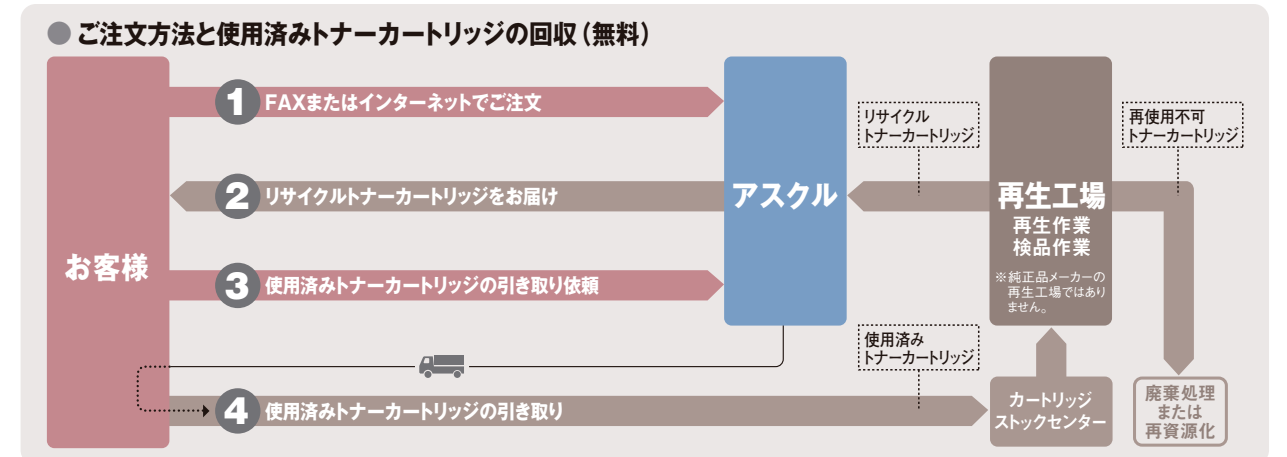


※2003年5月期、2004年5月期は、1.7kg/冊で換算しています。
※2005年5月期は、2.1kg/冊で換算しています。

ダンボールの回収状況

ダンボールの回収は年間86tであり、回収にあたって計画した目標の80%でした。今後さらに回収量を増加させてまいります。

トナーカートリッジ回収について



※詳しい回収方法は、2005年春・夏号カタログのP.679、P.681に掲載しています。

環境情報の発信

お客様への環境情報のご提供は、「アスクルカタログ」や「アスクルインターネットショップ」だけでなく、いろいろな媒体で情報を発信しています。

ワンダーマート

季節商品や期間限定価格の商品などをタイムリーにラインアップした月刊ミニカタログ「アスクルワンダーマート」は、ご購入商品と同梱してお客様に提供しています。6月の環境月間にはより多くのお客様に環境について考えていただきたく、2002年より毎年6月号で環境のページを設けて、商品のご案内や環境情報を発信してまいりました。2005年6月号では「エコって、難しいですか?」というテーマで、グリーン商品の他、省エネルギー、ゴミ減量に役立つ商品の特集しました。また、「オフィスに緑をキャンペン」では、抽選で観葉植物をプレゼントするなど、単にグリーン商品を紹介することにとどまらず、購入を促進するプロモーションも行っています。



ドリーマーズ

Web連動のコミュニティ誌『dreamers (ドリーマーズ)』は毎月発行で、請求書に同封してお届けしています。主な読者層が20~30代の女性のため、2004年から「エコキーワード」のコーナーを設けて、手軽な読み物としての環境情報を発信しています。

2005年6月号では、別途アスクル商品紹介ページ「dreamers+ (ドリーマーズプラス) 働く時間を賢くクリエイト」にて「環境月間」を取り上げ、オフィスライフにかっこよく、スマートに取り入れられるグリーン商品を紹介しています。

ドリーマーズのエコキーワードの掲載内容

掲載号	主な内容	
2004年	7月号	節水コマ
	8月号	28℃ (エアコン設定温度)
	9月号	マイバッグ
	10月号	エコツアー
	11月号	詰め替えパック
	12月号	スローフード
2005年	1月号	グリーン電力
	2月号	リターナブルびん
	3月号	環境報告書
	4月号	アースデイ
	5月号	待機電力
	6月号	サステナビリティ



※アスクル環境報告書の報告対象期間は、2005年5月20日までですが、各種媒体の作成を報告期間中に実施させていただきましたので報告させていただきます。

環境コミュニケーション

アスクルの事業活動は、お客様はもとよりサプライヤー様、エーエージェント様にご協力いただいています。環境コミュニケーションの一環として、アスクル環境報告書を配布して広く活動内容を報告しています。また、お客様からの環境に関するお問い合わせも増加しています。

エーエージェント様との環境コミュニケーション

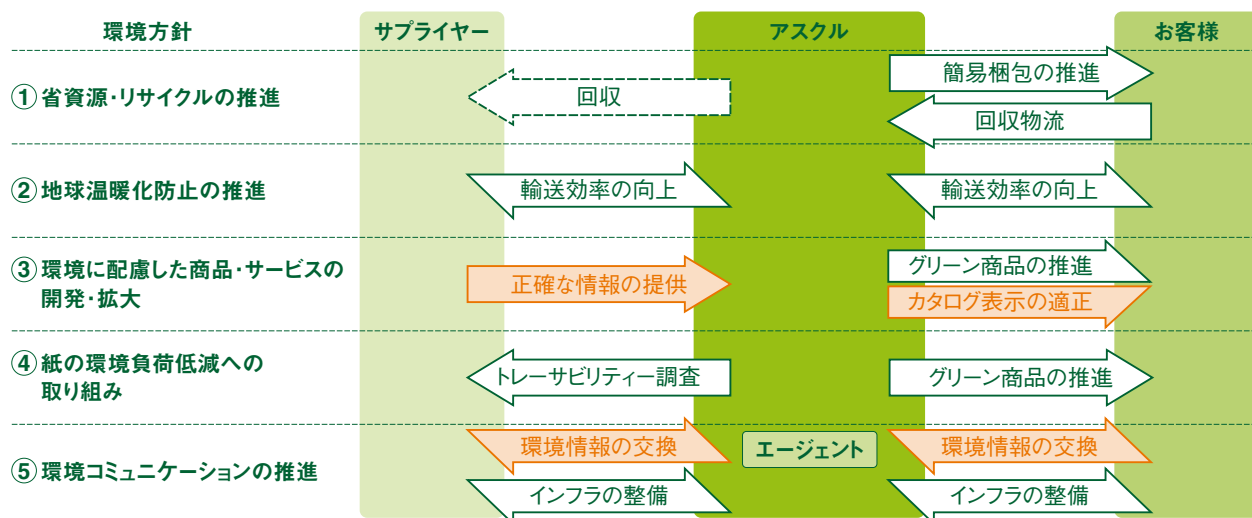
毎年春と秋の2回のカタログ発行時期に、エーエージェント(アスクル取扱販売店)様に対する説明会を全国で実施しており、同説明会においてグリーン商品に対する説明を随時実施してまいりました。

2004年秋の説明会ではアスクル環境報告書を配布し、企業としての環境活動をご説明いたしました。説明会に参加できなかったエーエージェント様にはアスクル環境報告書を送付し、企業の環境政策は商品やサービスだけでなく、提供している企業そのものの姿勢の環境政策が強く求められていることをお伝えしました。2005年の秋の説明会において、本環境報告書を配布、今年度の環境活動を報告させていただきますと予定しています。

お客様からの環境活動に対する問合せ状況について

お客様からのお問い合わせの窓口として「アスクルお問い合わせセンター」を設置し、商品や配送、各種サービスや環境などに関するお問い合わせについての対応を行っています。お客様のお問い合わせ件数は1日平均5,000件であり、そのうち環境関連のものが39件で、対前年比170%も増加しています。お問い合わせ内容ではトナー回収についてが一番多く、カタログ・ダンボール回収のお問い合わせも多数いただいています。その他、製品安全データシートの交付依頼についてのお問い合わせも割合は少ないですが、対応件数は2004年5月期よりも増加しています。

大アスクルの環境コミュニケーションモデル



サプライチェーンマネジメントについて

アスクルに商品をご提供・ご協力いただいているサプライヤー様は399社であり、昨年度に引き続き各社が発行している環境報告書(紙媒体・Web媒体)より記載内容を分析しました。分析結果は、下記の表の通りです。

また、全サプライヤー様に企業としての環境活動や企業姿勢についてご理解を賜りたくアスクル環境報告書を送付させていただきました。そのうち、19社のサプライヤー様より報告書の内容についてご意見を賜りました。ご意見内容は巻末の「アンケート結果」にてご報告させていただきますが、「現在の取り組み状況が報告書にて確認できた」という嬉しいご意見をいただきました。本報告書も昨年と同様、配布させていただきます。さらに環境パートナーシップを深めてまいります。

マネジメントシステムと情報の開示状況

内容	2004年5月期 (n=394)	2005年5月期 (n=399)
環境報告書を発行していて、ISO14001及びISO9000を取得している企業	52	47
環境報告書を発行していて、ISO14001のみ取得している企業	36	23
ISO14001を取得しているが、環境報告書が未発行である企業	65	99
ISO9000のみ取得している企業	18	35

各種ガイドラインの記載状況について

項目	2004年5月期	2005年5月期
消耗品調達方針の開示	67	63
原材料調達方針の開示	59	51
販促物に関する方針の開示	29	27
環境会計の導入	77	60
報告内容の第三者検証の開示	31	28
消費者との環境コミュニケーションの開示	78	66
環境リスクマネジメントの開示	63	47

環境マネジメントシステムの運用について

ISO14001の登録範囲に名古屋センターと本社オフィスの一部を拡大しました。
活動重点項目は、マネジメントシステムの浸透です。

環境マネジメントシステムの考え方

環境マネジメントシステムに取り組む基本姿勢として、「環境マネジメントシステムは環境にとどまらず、アスクルの経営の基本である」と考えています。併せて環境マネジメントシステムを体質化させることにより、経営における足腰の強化が、企業のリスク軽減につながることを考え、環境活動を促進しています。

今年度の活動重点項目

環境マネジメントシステムの活動ポイントは、2004年9月に稼動を開始した名古屋センターと本社機能の一部の登録範囲への取り込み（サイトの拡大審査）と、従来の登録範囲における環境マネジメントシステムの浸透・定着化です。

昨年度の活動の変更点

環境マネジメントシステム体制の浸透・定着化を促進するため、基本ルールの浸透と課題解決型の併合型の体制としました。スタッフの業務活動が環境に密接に関連していることが環境に対する意識の向上となり、より深く環境マネジメントシステム活動が実施できることを目的としています。今後も併合型の体制を強化していきます。

来年度の活動重点項目

2004年11月のISO14001規格改訂に伴い、2006年の定期審査時に1996年版から2004年版への規格の移行を行います。

ISO14001の認証について

認証取得日	登録範囲	審査会社 (登録番号)
2004年3月12日	本社オフィス 仙台センター DCMセンター 横浜センター 大阪センター 福岡センター	(財)日本品質保証機構 (JQA-EM3850)
2005年5月27日	本社オフィスの一部 名古屋センター	

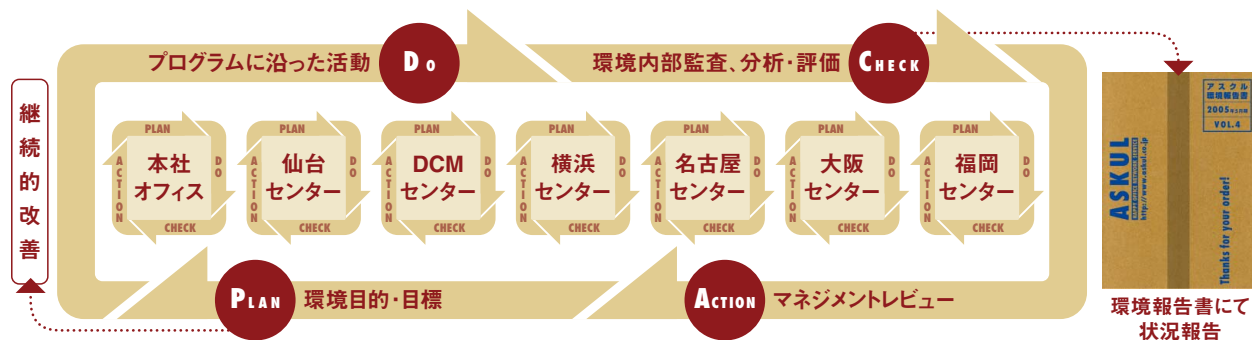
緊急事態の訓練実施状況

環境における緊急項目は、全社共通として火災と各物流センターのエアコンプレッサー（空気圧縮機）のドレン（油混じりの水）を特定しています。
なお、コンプレッサーのドレン対策として、ろ過設備を設置して通常排水を行うことができるようになりました。

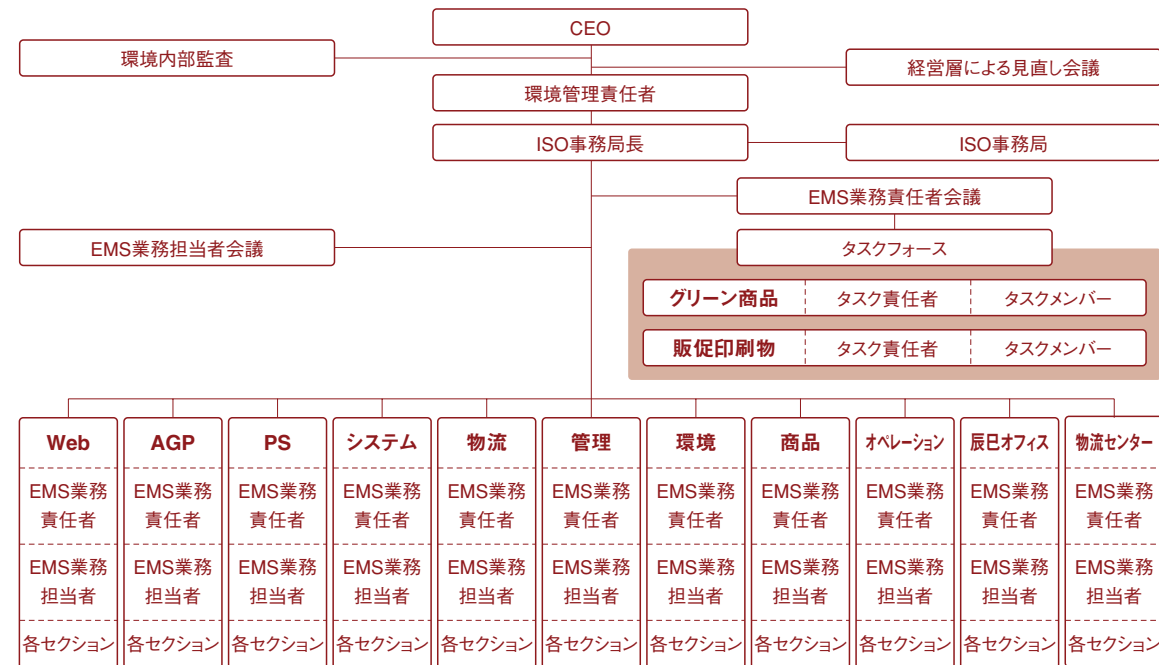
特定項目	実施箇所	実施日
火災訓練	本社オフィス	2005年 3月 3日
	仙台センター	2004年10月23日
	DCMセンター	2004年12月17日
	横浜センター	2004年12月 4日
	名古屋センター	(2005年8月予定)
	大阪センター	2004年12月18日
	福岡センター	2005年 2月12日



環境マネジメントシステムフロー



環境マネジメントシステム体制



EMS業務責任者会議 ⇒ 会議の主要活動は、環境管理責任者がEMS業務責任者を3ヶ月に1度召集して各業務機能の環境活動の進捗状況を確認します。環境目標に対するプログラムの進捗状況の確認・検証・是正です。また、経営層の見直し会議は、本会議の一環として実施します。

「チームマイナス6%」に参加登録します。

京都議定書が今年の2月に発効され、日本は1990年を基準として2012年までに温室効果ガス6%削減を約束しています。実際の温室効果ガスの排出量は2003年には1990年比で7%増加しているため、実質約13%削減しなければならないこととなります。この目標を実現するための国民的プロジェクトが「チームマイナス6%」で、アスクルもそのメンバーとして温室効果ガス削減に取り組んでいきます。「チームマイナス6%」では、エアコンの温度調節などの節電や、節水、環境に配慮した商品の選択、ゴミの削減など6つのアクションを提案していきます。アスクルは、電力使用量の削減やリサイクルの促進、グリーン購入

の励行などを目標値に掲げて活動しており、「チームマイナス6%」の一員として国民運動への参画という意識を常に持ち、活動を継続強化していきます。また温室効果ガスの排出量の伸び率が、産業界よりも一般家庭のほうが高いことを考慮して、社員の積極的な個人参加と家庭での6つのアクションの推進も呼びかけています。更にアスクルではお客様向けのWeb-サイトでも「チームマイナス6%」を紹介しています。京都議定書の目標達成に向けて、「チームマイナス6%」の活動に今後も積極的に取り組んでいくとともに、活動の輪を広げていきます。

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

チームマイナス6% <http://www.team-6.jp/>

- 6つのアクション**
- ① 温度調節で減らそう
 - ② 水道の使い方減らそう
 - ③ 自動車の使い方減らそう
 - ④ 商品の選び方で減らそう
 - ⑤ 買い物とゴミで減らそう
 - ⑥ 電気の使い方減らそう

ISO14001 定期審査の結果報告

環境内部監査では、ルールと運用の整合性が、次の活動課題になりました。
定期審査では、ISO14001の2004年版の要求事項の適応項目のご意見をいただきました。

環境教育の実施状況

研修名	研修日程	実施回数	対象者
環境一般教育	2004年8月	41回	本社オフィス全スタッフ ※物流センターは、随時実施
環境内部監査員研修	2004年11月	1回	EMS業務担当者

内部監査員研修



環境内部監査の実施について

- 実施時期 ▶ 2004年12月～2005年2月
- 対象機能 ▶ 8カ所、13機能(全社)
- 監査項目 ▶ ISO14001規格の要求事項の適合性、及び手順書の運用状況
- 改善件数 ▶ 106件

対前年を比較すると改善件数は減少しましたが、改善項目としては「コミュニケーション」、「監視及び測定」の改善件数が多く、「活動の引継ぎと検証」が次のサイクルの課題となりました。

内部監査の状況



監査結果(抜粋)

ISO14001規格番号	規格の要求事項	件数	是正強化ポイント
4.4.6	運用管理	34	現場で作成した環境活動のルールと運用を整合させていく。
4.4.3	コミュニケーション	13	EMS業務責任者、担当者の異動・変更に伴う引継ぎや情報共有を速やかに実施する。
4.4.2	訓練、自覚及び能力	10	運用管理のサポートとなる専門教育の強化が必要である。
4.5.1	監視及び測定	10	活動のふりかえりを日常動作に取り込んでいく。



経営層による見直し会議について

2005年1月、環境活動の総括である経営層による見直し会議を実施しました。ISO事務局より、環境目的・目標の進捗状況、環境内部監査状況、環境活動を取り巻く社外状況の変化やステークホルダーの関心事などを報告しました。岩田CEOより、「環境マネジメントシステムの活動する意識は2つあり、茶道と同じ『作法』と『心』である」という基本姿勢の説明があり、以下の指示がありました。

- ①環境活動の促進方法として、目標を明確にし、社会貢献するために何を行っていくべきかを明確にしておく必要がある。
 - ②環境マネジメントシステムの中で「守る」「攻める」活動を同時で行う。
- また、環境顧問より、「環境マネジメントシステムの活動をアスкул(小アスкул)に留めず、大アスкулにまで拡大して、本格的なサプライチェーンマネジメントに取り組んでいただきたい。特に、業界を問わず、エコアクション21やISO14001などの環境マネジメントシステム取得が条件として含まれている。」という提言がありました。

来年度の環境マネジメントシステムの活動について

一連の検証活動を通して、ご意見をいただいた内容が、ISO14001:2004年版の規格の要求事項にも要求されている項目である為、3年目の環境活動の促進を図ってまいります。

ISO14001 定期審査について

- 実施時期 ▶ 2005年4月
- 審査対象 ▶ 6サイト(全8サイト中)
- 改善指摘内容 ▶ ISO14001:2004年版にて明記されている「適用範囲」の明確化の必要性、ルールに沿った活動の不足点についてご指摘をいただきました。

評価内容件数一覧

評価内容	件数
改善指摘	8
改善の機会	22
ストロングポイント	1
合計	31

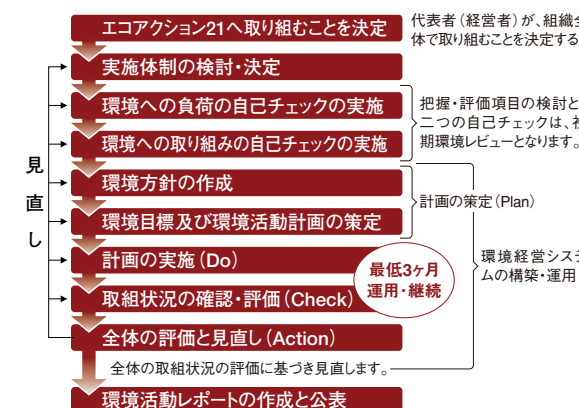
規格の要求事項別の評価内容(抜粋)

ISO14001規格番号	規格の要求事項	件数
4.5.1	監視及び測定	7
4.3.1	環境側面	5
4.4.6	運用管理	4
4.4.2	訓練、自覚及び能力	3
4.4.3	コミュニケーション	3

エコアクション21について

エコアクション21とは、環境マネジメントシステムの1つで中小企業、学校、公共機関などに対して、「環境への取り組みを効果的・効率的に行うシステムを構築・運用・維持し、環境への目標を持ち、行動し、結果を取りまとめ、評価し、報告する」ための方法として、環境省が策定したエコアクション21ガイドラインに基づく、事業者のための認証・登録制度です。2003年に環境省が行ったパイロット事業にはアスкулのお取引先様の企業3社が参加し、エコアクション21の認証を取得しました。今後、新たな環境マネジメントシステムである「エコアクション21」の認証・登録制度を、お取引先様をはじめ広くご案内してまいります。

エコアクション21の取り組み手順



エコアクション21の特徴

1. 中小企業等でも容易に取り組める環境経営システムです(環境マネジメントシステム)
中小事業者等の環境への取組を促進するとともに、その取り組みを効果的・効率的に実施するため、国際標準化機構のISO14001規格をベースとしつつ、中小事業者でも取り組みやすい環境経営システムのあり方をガイドラインとして規定しています。
2. 必要な環境への取り組みを規定しています(環境パフォーマンス評価)
エコアクション21では、必ず把握すべき項目として、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量を規定しています。さらに、必ず取り組んでいただく行動として、省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水の取り組みを規定しています。これらの取り組みは、環境経営に当たっての必須の要件です。
3. 環境コミュニケーションにも取り組んでいただきます(環境報告)
事業者が環境への取り組み状況を公表する環境コミュニケーションは、社会からの信頼を得るための必要不可欠の要素となっています。そこで、環境活動レポートの作成と公表を必須の要素として規定しています。
エコアクション21は、環境への取り組みを総合的に進めることができ、比較的容易、かつ効率的に取り組むことができます。また、環境だけの取り組みの推進だけでなく、経費の削減や生産性・歩留まりの向上、目標管理の徹底等、経営的にも効果をおげることができます。そして、大手企業が環境への取り組みや環境経営システムの構築を取引先の条件の一つとする、サプライチェーンのグリーン化に対応することができます。

環境法規の遵守状況

遵守すべき主要な環境法規は、循環型社会関連の法規です。
事業活動における環境法規の遵守状況を、さらに強化してまいります。

事業活動における環境法規の遵守状況について

カタログにおける環境ラベル誤表示について

1. 2001年秋・冬号カタログにおける誤表示

2001年の秋・冬号カタログにおいて、エコマーク商品・グリーン購入法適合商品・グリーン購入ネットワーク(GPN)データブック掲載商品・グリーンマーク商品などの環境ラベルの誤表示がありました。

誤表示の内容は、本来、認証機関の認定を受けていなかったり、法判断基準に適合していない商品を、認定商品・適合商品として誤って記載したこと、お客様の混同をまねきかねないまぎらわしいカタログ表記をしたこと、認証機関の指定に沿った表記方法を逸脱した点などでありました。

2. 2003年秋・冬号カタログにおける誤表示

2003年秋・冬号カタログに掲載したグリーン商品のうち、

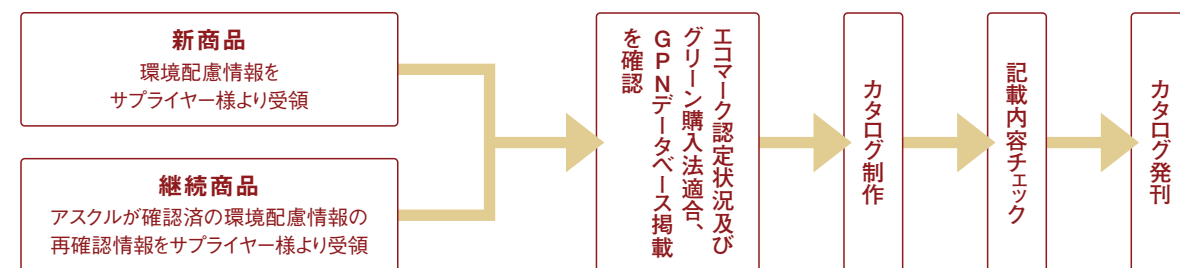
カタログ掲載商品名とエコマーク商品名の相違があるものが5アイテムありました。相違は、カタログ発刊前の自主チェックで見えませんでした。対応はグリーン商品リストにて正しい表示を行うこと、カタログに正誤表を同封すること、アスクル・インターネットショップにも掲示を行うことのお客様への告知を行いました。
状況と対応については、(財)日本環境協会へ報告をしました。

3. 環境ラベルの情報管理について

現在は、環境ラベルの情報管理体制を見直し、2005年春・夏号より新たにGPNデータベース掲載商品がアスクルのグリーン商品の定義に追加されても、正確な表示をできる仕組みで情報管理を行っています。

環境ラベルの情報管理運用フロー（抜粋）

環境ラベルの適合確認方法としては下記の方法をとっています。①エコマーク商品は(財)日本環境協会が監修するグリーンステーションによる確認と、アスクル自社による確認の2通りで、認定の有効性を確認しています。②グリーン購入法適合商品は、グリーン購入法の第6条に基づく基本方針に定められた品目及びその判断基準への合致をアスクルにて確認しています。③GPNデータベース掲載は、GPNの発行するGPNデータベース掲載確認書との確認を行っています。

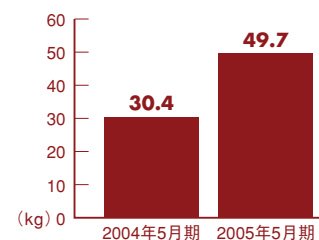


アスクル清掃活動について

2004年1月より、最寄り駅から本社オフィスまで通勤する道路を清掃活動として、1ヶ月に1度、第一金曜日を「清掃活動日」として実施しています。今期は11回の実施で、のべ131名のスタッフが参加し、廃棄物の収集量は、以下の通りです。

また、廃棄物の種類としてはタバコの吸殻が最も多く、タバコの空き箱、空き缶、空き瓶などです。

歩行者のポイ捨てだけでなく、通行車両からのポイ捨ても発生するため、「ゴミが捨てにくい状況＝ゴミが落ちていない状況」の環境整備を実施しています。



※2004年5月期のデータは、2004年1月～2004年5月の5ヶ月間の活動における収集量です。少しでもポイ捨てによるゴミが削減できるよう、また活動を行うスタッフの環境意識を向上させるよう、継続活動を実施してまいります。



容器包装リサイクル法による委託料金の支払いについて

アスクルは主として中小事業所を対象としたオフィス用品の通信販売業ですが、一部個人としてご利用いただいているお客様もいらっしゃるから、容器包装リサイクル法による特定事業者として、再商品化義務を負っています。2005年5月期の再商品化委託料は27,178円であり、(財)日本容器包装リサイクル協会に再商品化の委託を行いました。

廃棄物処理法の遵守状況

1. 行政定期立入検査の状況

センター名	検査実施日	評価
仙台センター	2005年2月17日	問題無し。活動は良好。
大阪センター	2005年7月 6日	評点246点。良好。

※その他の物流センター、本社オフィスへの行政立入検査は発生していません。

2. ISO14001定期審査における改善指摘

愛知県条例の定める「廃棄物の適正な処理の促進に関する条例」に定められている産業廃棄物の委託業者の能力確認の未実施と付随する記録が無かったため、2005年6月15・16日の2日間で廃棄物の処理業者の現場確認を実施いたしました。その結果、現在契約している業者にて、引き続き廃棄物の処理を対応いただくことになりました。今後も継続的に現場確認や意見交換を通して適正処理に努めてまいります。

3. 環境報告書審査における改善指摘

廃棄物業者との契約書に添付する許可書のコピーが添付されていなかったり、許可書の期限が切れていることが判明しましたので、更新及び差替えを行いました。契約内容の確認及び許可内容の検証は定期的実施してまいります。

浄化槽法の遵守状況

名古屋センターでは、浄化槽法に定められている第1回目の法定検査が未実施だったため、2005年7月11日に実施予定です。物流センターの法的管理を強化してまいります。

家電リサイクル法の遵守状況

アスクルはお客様からの商品の引き取りを受けて、リサイクル券の発行及び商品の引き取りを行っています。社内において家電リサイクル法の管理運用方法を定めて運用していましたが、リサイクル券の管理について適正運用を実施していなかったことが判明しました。2005年7月、運用状況の確認を行っております。今後、各方面に対する改善対策を速やかに実施し、適正運用を図ってまいります。

その他の環境関連法規に関して

2005年5月期の法令遵守活動において、環境に関する罰金・料、訴訟及び本社オフィス・各物流センターに対する苦情や利害関係者からの要求は発生していません。

大阪センターの表彰

「大阪市廃棄物の減量推進および適正処理ならびに生活環境の清潔保持に関する条例」第36条に基づき検査結果が優良でありましたので表彰対象になりました。



本社オフィスの環境活動

本社オフィスの環境活動は、廃棄物の排出量が減少しましたが、電気使用量は増加しました。コピーペーパーの使用量も増加しているため、活動の促進をさらに進めてまいります。

電気使用量について

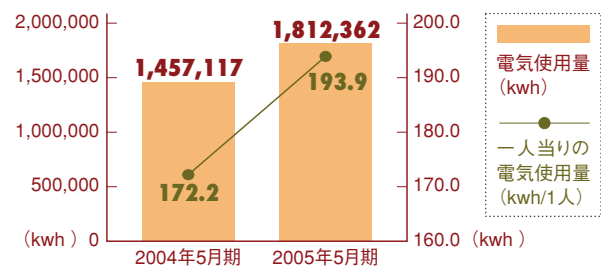
本社オフィスの一部移転に伴い、下記のデータは2つのオフィスの合計数値です。移転先オフィスは2004年5月期より使用量の把握を行いました。原単位のスタッフ人数は移転先オフィスの増床・増員に伴い、正式に把握を開始したのは、2004年12月度からです。

また、2004年5月期は本社オフィスの分電メーターの配線ミスにより正確な定量把握ができませんでしたが、2004年9月に原因究明と2回の検証を実施して、現在は正常な使用量把握を行っています。

しかし、残念ながら活動目標であった原単位削減までには至らず使用量全体では対前年比24%増となっています。

※下記の表は、本社オフィスと移転先オフィスの合計です。

電気使用量の推移



販促印刷物の適正管理について

販促印刷物は、2004年5月期より作成基準を策定して活動を行っていましたが、2005年5月期は再度作成基準を体系化し、販促印刷物の管理手順書を策定して、作成時の環境配慮と廃棄量の定量把握と削減対策を実施しています。今後は販促印刷物の有効性について検証し、業務の効率と環境を配慮した販促印刷物を展開してまいります。

※販促印刷物とは、P.12のワンダーマート、ドリーマーズおよびキャンペーンチラシ等をさします。

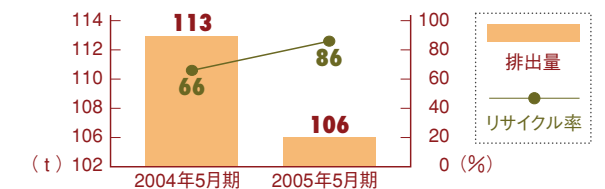
排出物について

排出物は、対前年比6.2%減です。排出量が削減したのはダンボール・その他可燃物であり、本社オフィスのレイアウト変更等による社内移動回数が少なかったことが起因しています。日常生活における排出物の削減に向けて、スタッフへの啓発を活発に行ってまいります。

一方、排出物のリサイクル率は86%であり、対前年比では20.6%の向上です。これは、廃棄物処理業者の変更によって、分別区分を従来の12項目から14項目に増加してリサイクル可能な資源を明確に分類したこと、スタッフの日常生活の分別の徹底によるものです。今後、分別の徹底は引き続き実施し、さらに総量削減活動を促進してまいります。

※尚、本社オフィスの一部移転に伴い、リサイクル率はe-tailing centerのデータであり、総合すると66%になります。これは、移転先オフィスの一般廃棄物区分の相違と焼却処理により、リサイクル率が減少しました。

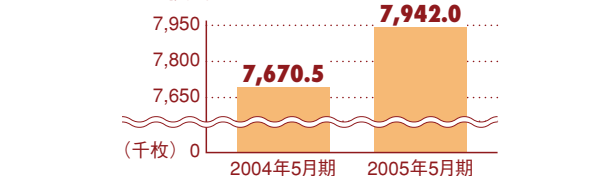
廃棄物排出量



コピーペーパーの使用量について

コピーペーパーの使用量は対前年比3.5%増で、定量把握にとどまりました。ただし、全社的に部門単位でコピーペーパーの正確な定量把握と削減対策を講じるため、各部門にコピーカードを配布し、部門単位でコピー枚数の把握を行うこととなりました。今後、正確な定量数値を活かして削減活動を推進してまいります。

コピーペーパー使用量



販促物印刷基準

販促印刷物の作成においては、印刷物の使用対象や使用方法、効果などを十分に考慮して計画を立て、以下の基準を満たすよう作成する。

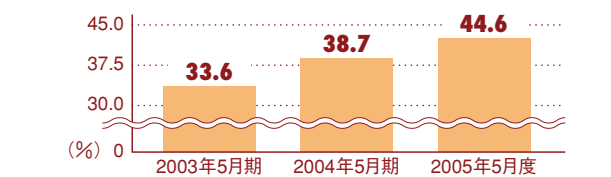
- (1) 使用する紙について
 - ・古紙パルプ配合率は70%以上とする。(ただしDMは可能な限り古紙パルプ配合率が高いものとする。)
 - ・非塩素漂白パルプ配合率は可能な限り高いものとする。
- (2) インクについて
 - ・SOY INKを使用する。またその制作物にはSOY INKマークを表示する。(ただしDMは可能な限りとする。)
- (3) 印刷度数
 - ・必要以上の印刷度数を使用しない。
- (4) 頁数とサイズ
 - ・必要以上の頁数とサイズを使用しない。
- (5) 仕上がり仕様・加工
 - ・リサイクルしやすい仕様を前提とする。
 - ・表面加工:ビニール加工は避け、ニス引きとする。
 - ・綴じ:金具綴じは避け、糊綴じとする。(ただしドリーマーズは可能な限りとする。)
 - ・ビニール袋 (PP袋等) に製版物を入れた最終仕様は禁止。

インターネット受注率について

お客様からアスクルへのご注文方法はファックス発注とインターネット発注の2つの方法で承っています。このうち、紙の負荷低減として、インターネット受注率の向上をめざして活動を実施しています。2005年5月期は、アスクルアリーナ(※1)のお客様のご利用の増加によって、インターネット受注率が向上しました。これは、アリーナ受注画面の構成を見直し、家具サービスの受注画面を追加し、受注を容易にしたので、お客様の登録数も増加いたしました。

※1 アスクルアリーナとは、アスクルのスピードとサービスに購買コスト削減、購買管理を付加したインターネットによる一括購買システムです。

インターネット受注比率



物流センターの環境活動

物流センターの電気使用量は、対前年比で増加しました。

排出物のリサイクル率100%実現に向けて活動を促進してまいります。

電気使用量について

物流センターの2005年5月期の電気使用量は前年比26%増となりました。売上対前年比が13%増と比較しても使用量が多いのは、新規物流センターとして名古屋センターが2004年9月に稼働を開始したためです。

また、対前年比原単位では15%増で今期の削減目標を達成することはできませんでしたが、

来期は削減対策の要として推進してまいります。

排出物の排出量について

全物流センターの排出量は、単体では減少しているものの、外部倉庫の排出量合計で見ると増加しています。

現在、ISO14001活動を通して、認証取得範囲だけでなく活動範囲の拡大に向けて、事業活動の環境負荷総量の把握を実施している最中であり、そのため、前年比較データが全センター単体と総合が収集できていないため、下記の比較とさせていただきます。

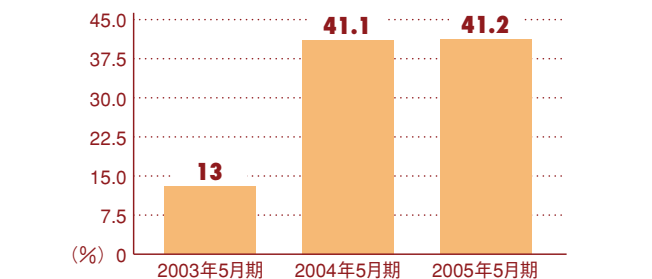
	2004年5月期	2005年5月期
全センター単体		10,027t
全センター総合 (外部倉庫含む)	10,320t	12,372t

社内消耗品のグリーン購入率について

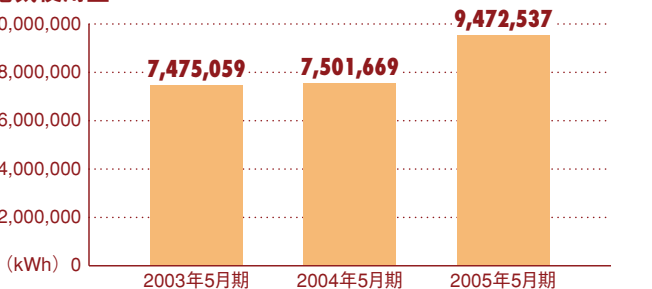
社内消耗品のグリーン購入率は、活動目標として「50%」を掲げていましたが、活動結果は2004年5月期の横ばいとなっています。これは、活動計画にあった「グリーン購入基準の見直し」、「社内消耗品の購入対象リストの試案」の作成が遅れてしまい活動成果まで至らなかったためです。

アスクルはお客様のグリーン購入の促進だけでなく、事業活動におけるグリーン購入率の向上を促進してまいります。

グリーン購入率



電気使用量



排出物のリサイクル率について

全物流センターの排出物におけるリサイクル率は、今年度平均で89.6%です。これは、仙台市の指導により仙台センターの木屑(木製パレット)が一般廃棄物として処理場にて焼却処理されているためであり、来期はリサイクルの実現をめざしてまいります。また、2006年5月期は3年間の活動目的である「リサイクル100%センター」の最終年にあたることから、ぜひ目的を達成して次の環境活動の大きな一歩にしてまいります。

リサイクル率一覧表

※下記の表は、外部倉庫を含むリサイクル率です。

センター名	リサイクル率
仙台センター	48%
DCMセンター	99%
横浜センター	98%
名古屋センター	98%
大阪センター	98%
福岡センター	97%

アスクルの社会貢献活動

森や木に関する社会貢献活動を行っています。
また、物流センターの所在地において、環境活動を実施しています。

WWFジャパン・インドネシア 森林保全基金プロジェクトへの参画

アスクルでは、毎年行っている「アスクル スマイルアップキャンペーン」の売上げの一部を「WWFジャパン・インドネシア森林保全基金プロジェクト」へ寄付しています。
このキャンペーンは、エントリーいただいたお客様のキャンペーン実施期間中のご購入金額10,500円(税込)を1口としてカウントし、1口につき5円を同基金へ寄付することでインドネシアにおける森林保全を支援するものです。
2004年5月21日～2005年5月20日の期間に実施したキャンペーンにおける寄付実績は以下の通りです。

キャンペーン名	実施期間	寄付金額(円)
スマイルアップ キャンペーン	04/9/1～04/10/29	2,719,665
スマイルアップ キャンペーン	05/3/1～05/4/28	2,768,855
2005年5月期合計		5,488,520



東海市での植樹

2004年9月にアスクル名古屋センターを開設後、地域の社会貢献活動として東海市が主催する「21世紀の森づくり」に参加・協賛いたしました。2004年11月21日に実施された植樹祭は、アスクル名古屋センターの目の前の区画が対象地区だったので、スタッフも植樹祭に参加し約2時間程度活動しました。また、協賛品として、ノート、ボールペンを参加商品として、植樹に使用する軍手を各1,000双ずつ2回にわたって提供いたしました。



植樹の風景

資料

- 6. データ集
- 7. 環境報告書第三者審査
JQA審査報告書
- 8. アスクル環境マネジメント
活動の足跡
- 巻末 アンケート
アンケート結果のご報告

※WWFジャパン・インドネシア森林保全基金プロジェクト

インドネシアでは、木材産業や紙パルプ産業の興隆に伴う急激な自然林の伐採、違法伐採の頻発、アブラヤシやアカシア植林地への転換などが、森林への大きな脅威となっています。WWFジャパンは、こうした森林破壊問題(特に紙・パルプ産業に由来すると考えられる)の解決に向けて「WWFジャパン・インドネシア森林保全基金プロジェクト」を開始し、日本企業の賛同・資金援助を募っています。

アスクルは、この趣旨に賛同し同プロジェクトの発起人団体として参画しています。

(参考:<http://www.wwf.or.jp/lib/press/p2004/p04010901.htm>)

※WWF(世界自然保護基金)

1961年に設立された世界最大の民間自然保護団体です。約460万人と約10,000社・団体のサポーターのネットワークに支えられ、スイスにあるWWFインターナショナルを中心とする100ヶ国あまりのネットワークを基盤として、100を超える国々で活動しています。加速しつつある自然環境の悪化を食い止めるだけでなく、破壊から回復の方向に導き、人類が自然と調和して生きられるような未来を築くことが究極の目的です。WWFインターナショナル名誉総裁は英国エジンバラ公フィリップ殿下、WWFジャパン名誉総裁は秋篠宮文仁親王殿下です。

URL : <http://www.wwf.or.jp/>

光熱関連 【単体】

項目	単位	本社 オフィス	仙台 センター	DCM センター	横浜 センター	大阪 センター	福岡 センター	名古屋 センター	合計
電気	kWh	1,812,362	1,009,821	3,100,658	1,729,100	1,201,450	803,204	1,628,304	11,284,899
CO ₂ 排出量	kgCO ₂	685,073	381,712	1,172,049	653,600	454,148	303,611	615,499	4,265,692
水道	m ³	14,166	1,516	5,753	2,880	2,554	886	1,732	29,487
CO ₂ 排出量	kgCO ₂	8,315	890	3,377	1,691	1,499	520	1,017	17,309
LPG	m ³	6,347	223	0	0	0	0	0	6,570
CO ₂ 排出量	kgCO ₂	39,419	1,385	0	0	0	0	0	40,804
軽油	ℓ	0	0	0	0	16,325	0	0	16,325
CO ₂ 排出量	kgCO ₂	0	0	0	0	42,759	0	0	42,759
CO ₂ 排出量 合計	kgCO ₂	732,807	383,987	1,175,426	655,291	498,406	304,131	616,516	4,366,564

※名古屋センターのデータは、2004年10月度～2005年5月度の合計です。

廃棄物排出量 【単体】

(単位:t)

項目	本社 オフィス	仙台 センター	DCM センター	横浜 センター	大阪 センター	福岡 センター	名古屋 センター	合計
段ボール	10.7	428.0	1,338.4	510.1	884.5	318.1	178.1	3,667.9
コピー用紙	47.9	6.6	2.5	176.8	10.4	0.5	0.3	245.0
その他 紙類	15.3	49.0	199.8	149.4	148.2	31.8	21.3	614.8
その他 可燃物	16.8	317.1	41.9	27.4	26.1	8.8	7.5	445.6
ビン・缶・ ペットボトル	2.5	0.0	0.3	5.2	3.9	0.4	0.1	12.4
その他 不燃物	0.1	0.0	0.8	2.5	3.1	2.6	2.4	11.5
木くず	0.0	93.5	2,502.7	667.1	729.0	232.2	313.8	4,538.3
廃プラスチック	12.4	20.8	108.1	73.2	45.1	7.5	6.9	274.0
ガラスくず	0.0	0.3	2.0	2.1	0.4	0.0	0.0	4.8
金属くず	0.0	0.5	15.8	9.1	1.8	0.0	0.0	27.2
その他産廃	0.0	8.7	0.3	268.1	1.9	12.2	0.3	291.5
合計	105.7	924.5	4,212.6	1,891.0	1,854.4	614.1	530.7	10,133.0

※名古屋センターのデータは、2004年11月度～2005年5月度の合計です。

資材投入実績

(単位:t)

項目	本社 オフィス	仙台 センター	DCM センター	横浜 センター	大阪 センター	福岡 センター	名古屋 センター	合計
ダンボール	—	770.1	1,501.7	960.4	1,437.8	1,027.5	317.2	6,014.7
宅配袋	—	10.7	84.0	33.2	42.3	22.9	17.0	210.1
レジ袋	—	0.0	27.8	1.0	26.1	4.8	3.1	62.8
ビニール袋	—	9.6	24.7	9.3	17.4	13.9	4.6	79.5
ストレッチフィルム	—	2.4	39.9	53.7	44.4	3.1	1.9	145.4
暖衝材	—	85.6	227.5	204.7	252.1	108.0	24.5	902.4
クラフトテープ	—	11.9	0.5	17.8	24.3	11.0	5.4	70.9
OPPテープ	—	0.2	19.4	0.0	0.0	0.1	0.3	20.0
荷札	—	5.3	19.2	8.3	14.8	4.7	4.6	56.9
ビッキングリスト	—	1.7	6.1	2.5	4.8	1.6	0.0	16.7
納品書	—	5.9	18.0	8.8	18.4	5.6	3.2	59.9
合計	—	903.4	1,968.8	1,299.7	1,882.4	1,203.2	381.8	7,639.3

廃棄物排出量 【総合】

(単位:t)

項目	本社 オフィス	仙台 センター	DCM センター	横浜 センター	大阪 センター	福岡 センター	名古屋 センター	合計
段ボール	10.7	459.5	1,338.4	620.8	995.2	343.7	178.1	3,946.4
コピー用紙	47.9	8.9	2.5	177.4	10.9	3.1	0.3	251.0
その他 紙類	15.3	60.4	199.8	149.4	201.3	32.0	21.3	679.5
その他 可燃物	16.8	702.2	41.9	42.0	59.0	9.8	7.5	879.2
ビン・缶・ ペットボトル	2.5	0.0	0.3	5.2	3.9	0.4	0.1	12.4
その他 不燃物	0.1	0.0	0.8	2.5	3.6	3.6	2.4	13.0
木くず	0.0	94.1	2,502.7	973.0	1,762.6	380.9	313.8	6,027.1
廃プラスチック	12.4	32.8	108.1	73.2	90.2	18.8	6.9	342.4
ガラスくず	0.0	0.3	2.0	2.1	0.4	0.0	0.0	4.8
金属くず	0.0	0.5	15.8	9.1	1.8	0.0	0.0	27.2
その他産廃	0.0	8.7	0.3	268.1	4.8	12.2	0.3	294.4
合計	105.7	1,367.4	4,212.6	2,322.8	3,133.7	804.5	530.7	12,477.4

※総合は、外部倉庫の排出量を含んでいます。

本社オフィス

項目	使用・排出量	CO ₂ 排出量	資材購入実績 (単位:t)					
電気	1,812,362kWh	685,073kgCO ₂	ダンボール	宅配袋	レジ袋	ビニール袋	ストレッチフィルム	緩衝材
水道	14,166m ³	8,315kgCO ₂	—	—	—	—	—	—
LPG	6,347m ³	39,419kgCO ₂	クラフトテープ	OPPテープ	荷札	ビッキングリスト	納品書	合計
軽油	—	—	—	—	—	—	—	—
CO ₂ 排出量合計		732,807kgCO ₂						

廃棄物排出量 (単位:t)											
一般廃棄物						産業廃棄物					
段ボール	コピー用紙	その他紙類	その他可燃物	ビン・缶・ペットボトル	その他不燃物	木くず	廃プラスチック	ガラスくず	金属くず	その他産廃	廃棄物排出量合計
10.7	47.9	15.3	16.8	2.5	0.1	0	12.4	0	0	0	105.7

仙台センター

項目	使用・排出量	CO ₂ 排出量	資材購入実績 (単位:t)					
電気	1,009,821kWh	381,712kgCO ₂	ダンボール	宅配袋	レジ袋	ビニール袋	ストレッチフィルム	緩衝材
水道	1,516m ³	890kgCO ₂	770.1	10.7	0.0	9.6	2.4	85.6
LPG	223m ³	1,385kgCO ₂	クラフトテープ	OPPテープ	荷札	ビッキングリスト	納品書	合計
軽油	—	—	11.9	0.2	5.3	1.7	5.9	903.4
CO ₂ 排出量合計		383,987kgCO ₂						

廃棄物排出量 (単位:t)											
一般廃棄物						産業廃棄物					
段ボール	コピー用紙	その他紙類	その他可燃物	ビン・缶・ペットボトル	その他不燃物	木くず	廃プラスチック	ガラスくず	金属くず	その他産廃	廃棄物排出量合計
459.5	8.9	60.4	702.2	0	0	94.1	32.8	0.3	0.5	8.7	1,367.4

DCMセンター

項目	使用・排出量	CO ₂ 排出量	資材購入実績 (単位:t)					
電気	3,100,658kWh	1,172,049kgCO ₂	ダンボール	宅配袋	レジ袋	ビニール袋	ストレッチフィルム	緩衝材
水道	5,753m ³	3,377kgCO ₂	1,501.7	84.0	27.8	24.7	39.9	227.5
LPG	—	—	クラフトテープ	OPPテープ	荷札	ビッキングリスト	納品書	合計
軽油	—	—	0.5	19.4	19.2	6.1	18.0	1,968.8
CO ₂ 排出量合計		1,175,426kgCO ₂						

廃棄物排出量 (単位:t)											
一般廃棄物						産業廃棄物					
段ボール	コピー用紙	その他紙類	その他可燃物	ビン・缶・ペットボトル	その他不燃物	木くず	廃プラスチック	ガラスくず	金属くず	その他産廃	廃棄物排出量合計
1,338.4	2.5	199.8	41.9	0.3	0.8	2,502.7	108.1	2.0	15.8	0.3	4,212.6

横浜センター

項目	使用・排出量	CO ₂ 排出量	資材購入実績 (単位:t)					
電気	1,729,100kWh	653,600kgCO ₂	ダンボール	宅配袋	レジ袋	ビニール袋	ストレッチフィルム	緩衝材
水道	2,880m ³	1,691kgCO ₂	960.4	33.2	1.0	9.3	53.7	204.7
LPG	—	—	クラフトテープ	OPPテープ	荷札	ビッキングリスト	納品書	合計
軽油	—	—	17.8	0.0	8.3	2.5	8.8	1,299.7
CO ₂ 排出量合計		655,291kgCO ₂						

廃棄物排出量 (単位:t)											
一般廃棄物						産業廃棄物					
段ボール	コピー用紙	その他紙類	その他可燃物	ビン・缶・ペットボトル	その他不燃物	木くず	廃プラスチック	ガラスくず	金属くず	その他産廃	廃棄物排出量合計
620.8	177.4	149.4	42.0	5.2	2.5	973.0	73.2	2.1	9.1	268.1	2,322.8

大阪センター

項目	使用・排出量	CO ₂ 排出量	資材購入実績 (単位:t)					
電気	1,201,450kWh	454,148kgCO ₂	ダンボール	宅配袋	レジ袋	ビニール袋	ストレッチフィルム	緩衝材
水道	2,554m ³	1,499kgCO ₂	1,437.8	42.3	26.1	17.4	44.4	252.1
LPG	—	—	クラフトテープ	OPPテープ	荷札	ビッキングリスト	納品書	合計
軽油	16,325ℓ	42,759kgCO ₂	24.3	0.0	14.8	4.8	18.4	1,882.4
CO ₂ 排出量合計		498,406kgCO ₂						

廃棄物排出量 (単位:t)											
一般廃棄物						産業廃棄物					
段ボール	コピー用紙	その他紙類	その他可燃物	ビン・缶・ペットボトル	その他不燃物	木くず	廃プラスチック	ガラスくず	金属くず	その他産廃	廃棄物排出量合計
995.2	10.9	201.3	59.0	3.9	3.6	1,762.6	90.2	0.4	1.8	4.8	3,133.7

福岡センター

項目	使用・排出量	CO ₂ 排出量	資材購入実績 (単位:t)					
電気	803,204kWh	303,611kgCO ₂	ダンボール	宅配袋	レジ袋	ビニール袋	ストレッチフィルム	緩衝材
水道	886m ³	520kgCO ₂	1,027.5	22.9	4.8	13.9	3.1	108.0
LPG	—	—	クラフトテープ	OPPテープ	荷札	ビッキングリスト	納品書	合計
軽油	—	—	11.0	0.1	4.7	1.6	5.6	1,203.2
CO ₂ 排出量合計		304,131kgCO ₂						

廃棄物排出量 (単位:t)											
一般廃棄物						産業廃棄物					
段ボール	コピー用紙	その他紙類	その他可燃物	ビン・缶・ペットボトル	その他不燃物	木くず	廃プラスチック	ガラスくず	金属くず	その他産廃	廃棄物排出量合計
343.7	3.1	32.0	9.8	0.4	3.6	380.9	18.8	0	0	12.2	804.5

名古屋センター

項目	使用・排出量	CO ₂ 排出量	資材購入実績 (単位:t)					
電気	1,628,304kWh	615,499kgCO ₂	ダンボール	宅配袋	レジ袋	ビニール袋	ストレッチフィルム	緩衝材
水道	1,732m ³	1,017kgCO ₂	317.2	17.0	3.1	4.6	1.9	24.5
LPG	—	—	クラフトテープ	OPPテープ	荷札	ビッキングリスト	納品書	合計
軽油	—	—	5.4	0.3	4.6	0.0	3.2	381.8
CO ₂ 排出量合計		616,516kgCO ₂						

廃棄物排出量 (単位:t)											
一般廃棄物						産業廃棄物					
段ボール	コピー用紙	その他紙類	その他可燃物	ビン・缶・ペットボトル	その他不燃物	木くず	廃プラスチック	ガラスくず	金属くず	その他産廃	廃棄物排出量合計
178.1	0.3	21.3	7.5	0.1	2.4	313.8	6.9	0	0	0.3	530.7

※名古屋センターのデータについて、光熱関連は2004年10月度～2005年5月度の合計、廃棄物排出量は2004年11月度～2005年5月度の合計です。

環境報告書第三者審査

アスクルでは、昨年発行した環境報告書より第三者審査を受審しています。
2005年5月期は、本社オフィス及び6つの物流センターにて環境負荷データや遵法状況について、現場審査がありました。

環境報告書第三者審査適合性表明書



2005年7月15日

アスクル株式会社
代表取締役社長 岩田 彰一郎 殿

財団法人 日本品質保証機構
理事長

上田 全 彰

1. 審査の対象

財団法人 日本品質保証機構は、「環境報告書作成基準案(環境省)」に基づき、アスクル株式会社が作成した2004年5月21日から2005年5月20日を対象期間とする『アスクル環境報告書2005年5月期VOL.4』に対する審査を行った。環境報告書に記載されている内容のうち具体的な審査対象項目を別表に示す。

審査にあたっては、下記に記す環境報告書に関連する全ての拠点及び付随する外部倉庫等での活動を対象とした。

訪問サイト名	所在地	機能
本社(e-tailing center)	東京都江東区辰巳 3-10-1	本社
仙台センター	宮城県仙台市宮城野区港 4-1-2	物流センター
DCM センター	東京都江東区青海 2-7	
横浜センター	神奈川県川崎市川崎区水江町 5-1	
名古屋センター	愛知県東海市名和町三ノ上 13-1	
大阪センター	大阪府大阪市住之江区南港中 6-6-23	
福岡センター	福岡県糟屋郡粕屋町大字阿恵 347-1	

2. 実施した審査の概要

環境報告書審査は「環境報告書審査基準案(環境省)」に準拠し、審査計画に基づいて期中審査及び期末審査を実施した。また本審査はサンプリングによって実施した。

3. 審査の結論

『アスクル環境報告書2005年5月期 VOL.4』における重要な環境情報が、一般に公正妥当と認められる環境報告書の作成基準に準拠して正確に測定、算出され、かつ、「環境報告書作成基準案(環境省)」に準拠して、漏れなく開示されている。

4. 留意事項

環境報告書の作成責任はアスクル株式会社にあり、環境報告書審査の責任は財団法人日本品質保証機構にある。アスクル株式会社と財団法人日本品質保証機構とは、特定の利害関係はない。

(別表) 審査対象とした項目

『アスクル環境報告書 2005年5月期 VOL.4』の項目	審査対象項目		『環境報告書作成基準案(環境省)』『環境報告書ガイドライン 2003年度版』の対象項目
	作成基準 ※1	ガイドライン ※2	
報告概要	○		①対象期間及び対象組織
トップメッセージ	○	○	③事業活動における環境配慮の方針等 1.経営責任者の緒言(総括及び誓約を含む)
トピックス			
企業概要	○		②事業の概要
アスクルの事業概要と環境負荷	○		②事業の概要
2005年5月期(2004年5月21日~2005年5月20日)の環境目標の達成状況	○		④事業活動への環境配慮の相違に関する目標、計画及び実績等の総括
お客様サービスとしての環境活動			
紙製品に関する調達方針について	○	○	⑧環境負荷の低減に資する製品、サービス等の状況 9.環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況
FSC(CoC)認証取得について	○	○	⑧環境負荷の低減に資する製品、サービス等の状況 9.環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況
コピーペーパーのグリーン調達	○	○	⑧環境負荷の低減に資する製品、サービス等の状況 9.環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況
森林管理問題解決への取り組み	○	○	⑧環境負荷の低減に資する製品、サービス等の状況 9.環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況
環境ラベルとグリーン商品の拡大について	○		⑧環境負荷の低減に資する製品、サービス等の状況
回収サービスの取り組み状況	○		⑧環境負荷の低減に資する製品、サービス等の状況
お取引先様への環境活動			
環境情報の発信	○		⑦事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況
環境コミュニケーション		○	9.環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況 11. 環境情報開示、環境コミュニケーションの状況
アスクル社内の環境活動			
環境マネジメントシステムの運用について	○		⑤環境マネジメントシステムの状況
ISO14001定期審査の結果報告	○		⑤環境マネジメントシステムの状況
環境法規の遵守状況	○		⑥環境に関する規制の遵守状況
本社オフィスの環境活動	○	○	⑦事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況 23.グリーン購入の状況及びその低減対策
物流センターの環境活動	○		⑦事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況
アスクルの社会貢献活動		○	13.環境に関する社会貢献活動の状況
データ集	○		⑦事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況
アンケート結果のご報告		○	11. 環境情報開示、環境コミュニケーションの状況

〈備考〉※1 …… 審査対象項目のうち『環境報告書作成基準案(環境省)』に該当する項目を示す。
※2 …… ※1以外に追加した項目(『環境報告書ガイドライン 2003年度版』に該当する項目)を示す。

アスクル環境マネジメント活動の足跡

2001年	カタログにおける環境ラベル誤表示問題が生起
	11月 環境品質マネジメント組織の新設
2002年	2月 取締役会にて、最初の環境方針を決定
	3月 環境方針を全社員に発表、周知 サプライヤー会議にて、グリーン商品の更なる開発促進の呼びかけを実施
	4月 環境顧問の招聘
	8月 アスクル環境報告書2002年度版を発行
	9月 ISO14001取得に向けた準備開始
2003年	3月 環境報告書公約内容進捗確認会議の開催
	6月 ISO14001規格に準拠した環境方針を取締役に決定
	7月 ISO14001の運用開始
	12月 環境内部監査を実施しました。 経営層による見直しを実施しました。
2004年	3月 ISO14001の審査を受審しました。 認証取得の報告をいただきました。
	5月 2年目のISO14001運用の開始 環境報告書審査の実施
	8月 アスクル環境報告書2004年度版を発行
	9月 名古屋センターISO14001運用準備
	11月 名古屋センターISO14001運用開始
2005年	4月 ISO14001定期審査とサイト拡大審査の実施
	5月 登録範囲の拡大に伴う登録証の改訂

おわりに

今回の4回目の環境報告書は、昨年に引き続き、(財)日本品質保証機構からの環境報告書第三者審査を受け発行させていただきました。

弊社は、事業活動の全領域で環境負荷の低減を継続的に推進することを目指し、昨年3月にISO14001の認証を取得、本年4月の定期審査では、昨年9月に稼動を開始した名古屋センター及び本社オフィスの一部の2カ所でサイトの拡大登録も行っております。

この1年間は、各事業所で全社員一体となって環境活動に取り組むとともに、各種事業活動としての取り組みを推進してまいりました。

2005年3月発行のカタログでは、グリーン商品の取り扱いを約2,700アイテムから約4,000アイテムに増やし、お客様のグリーン購入に一層貢献できるようになりました。

また、多くの事業所でご利用いただいているアスクルブランドのコピーペーパーに関しては、昨年より原材料のトレーサビリティ調査を行うとともに、森林資源の持続可能な調達を目指し、昨年11月に「紙製品に関する調達方針」を制定し本年6月に公開いたしました。アスクルブランドのコピーペーパーの調達は、同方針に基づき開始しております。

そのほか、地域に根ざした社会貢献活動として、名古屋センターの所在地である東海市の「21世紀の森づくり」では植樹祭への協賛を行いました。

また、お客様へのサポートとして、当日配送エリアにて旧カタログ及びダンボールの回収も行っております。

私たちは、引き続き、地球環境問題への取り組みを企業活動の重要な柱の一つとして、今後の環境活動に取り組んでまいります。

アスクル株式会社
ソーシャル レスポンス
ネットワークリーダー
亀井 一行

編集後記

今回のアスクル環境報告書の大きな変更点は、従来3つの軸（商品軸・物流軸・本社オフィス軸）で記載していましたが、2つの視点、①お客様に対して提供している環境活動、②自社で行った環境活動にわけて構成しました。また、詳細データはデータ集として巻末に集約し、活動内容を経年変化で報告いたしました。

作成過程では、定量データの精度を向上するため、年間データを何度も見直して確認をとり、たくさんの方々にご協力いただきましたが、この工程でデータの正確性を再認識しました。

また、全社横断型の分析・課題の抽出が次の活動の課題であることも、従来の環境活動では気が付かず、改めて気が付きました。

ここに、改めて情報の集約と構成に携わってくださった方々に感謝し、アスクルの環境に対する姿勢と活動内容をより多くの皆様に広めてまいりたいと思います。そして、今回の気づきました点を次の環境活動にぜひ活かして、全社的な活動の促進を図ってまいります。

「アスクル環境報告書2005年5月期」へのご意見・ご感想

アスクル環境報告書をご覧いただき、ありがとうございました。ぜひご意見・ご感想をお聞かせください。お寄せいただいたご意見・ご感想は次回環境報告書作成の改善点として参考にさせていただきます。お手数ですが、下記の質問事項にご回答の上、FAXいただければ幸いです。

Q1. 本報告書をお読みになってアスクルの環境への取り組み状況について、よくわかりましたか？
 1.とてもよくわかった 2.一応わかった 3.よくわからなかった 4.どちらでもない

コメント欄

Q2. 本報告書の内容のうち、印象に残ったもしくはご興味を持った項目はありましたか？
 選択項目の該当部分に、○をご記入ください。

ページ	項目	選 択 項 目				<コメント欄> その他、要望などがございましたら、ご記入ください。
		とてもよくわかった	わかった	よくわからなかった	どちらでもない	
P.02	トップメッセージ					
P.04	トピックス					
P.08	お客様サービスとしての環境活動					
P.12	お取引様への環境活動					
P.14	アスクル社内の環境活動					
P.23	データ集					
P.28	環境報告書第三者審査					
P.30	アスクル環境マネジメント活動の足跡					
巻末	アンケート結果のご報告					

Q3. 本報告書についてのご意見・ご感想、さらに知りたい内容がありましたらお聞かせください。

コメント欄

ご協力、ありがとうございました。
 下記の「個人情報の取り扱いについて」に同意いただけましたら、ご記入ください。

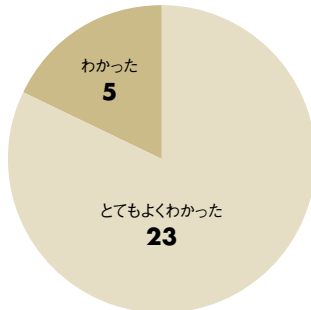
ふりがな		性別	男・女	年齢	歳	E-mail	
お名前							
ご住所	〒					アスクルの ご利用	有 ・ 無
ご職業 お勤め先		連絡先(登録) 電話番号				()	

【個人情報の取り扱いについて】
 ご提供いただきました個人情報(以下、個人情報という)は、アスクルの環境活動、および次回のアスクル環境報告書作成の改善点とさせていただきます。ご質問をいただいた場合にご連絡させていただくことを目的として使用させていただきます。なお、個人情報につきましては、アスクル個人情報保護方針に則り、厳重に管理し、上記以外の目的で第三者への提供、社外への業務委託は行いません。

アンケート結果のご報告

昨年の環境報告書に添付した巻末のアンケートにてご意見を頂戴したのは、28人のお客様やお取引先さまでした。アンケート内容でいただいたご意見は以下の通りであり、概ねご理解いただくことができたと思いますが、今年度は環境活動を提供させていただいた方々を対象として、内容を構成しています。今後とも、より分かりやすい環境報告書を作成し、アスクルの環境活動にご理解いただけるよう、努めてまいります。

Q1.本報告書をお読みになって、アスクルの環境への取り組み状況について、よく分かりましたか？



コメント

- 大変熱心にやられている事が判りました。直接、話を聞く機会があればもっと良く判ると思います。
- 図など、色分けが工夫され見やすいです。今後は社員の方の写真や、社会貢献活動の記事を増やしていただけたらと思います。
- このたびの環境報告書にて活動内容や具体的成果を公表していただき1サプライヤーとしても、貴重な情報をいただくことが出来ました。とても参考になりました。
- 貴社の環境に取り組む姿勢がよく伝わってきました。
- 環境保全に対する企業としての前向きな事が大変参考になりました。
- ISO14001や9001は、トップ(社長様)のコミットメントが重要と感じていますが、トップメッセージで見る社長様の取組が大変積極的であることを感じました。必ずいい結果がでるものと期待しています。
- 「何を目標とし、何について取り組み、どうなったか」という流れがしっかりと理解できた。

Q2.本報告書の内容のうち、印象に残ったもしくはご興味を持った項目はありましたか？

		1	2	3	4	— 無記入
		とてもよくわかった	わかった	よくわからなかった	どちらでもない	
P.01	トップメッセージ	17	8	0	0	3
P.02	企業概要	17	7	0	0	4
P.03	事業活動内容	15	7	2	0	4
P.04	環境マネジメント活動	16	9	1	0	2
P.12	遵守する環境法規	12	11	0	0	5
P.14	環境保全活動	15	9	2	0	2
P.16	商品軸の活動報告	14	9	0	0	5
P.18	物流軸の活動報告	14	10	2	0	2
P.20	社内オフィス軸の活動報告	13	11	1	0	3
P.23	社内環境教育への取り組み	10	14	1	0	3
P.24	環境コミュニケーション	9	12	1	0	6
P.25	アスクル社会貢献活動	10	11	2	0	5
P.28	おわりに	12	7	0	1	8

Q3.本報告書についてのご意見・ご感想、さらに知りたい内容がありましたらお聞かせください。

- 今後とも一層の物流軸の改善、革新を
- コピーペーパーを減らす工夫と、紙のリサイクル、トナーのリサイクルについてもっと詳しく知りたいと思いました。エコメールの工夫も素晴らしいと感じています。
- グリーン購入したときの特典を充実させるとか積極的にグリーン商品を紹介する(マーク表示だけでなく)などを推進していただけたらうれしいです。
- 他社に比して非常にコンパクトにまとめられた判り易い報告書で、色彩も良いしエコメールであることも良いと思います。アンケート用紙はご案内文書の裏面でよろしいかと思います。学校教育でも環境教育に取り組んでおりますので子供たちにも判るダイジェスト版等があるといいのかと思います。今後とも図書館内に置き市民に見ていただきますので寄贈をよろしく願いいたします。
- アスクル自体のInput-Outputが記載されていたのには好感が持てました。「CO2排出量」(P.15)については、トン(t)表記の方がすっきりと見えるかと思いました。
- 表紙デザインなど、アスクルさんらしさが出ていると感じました。
- 活動実績について、表にしてあるのが明確で、残念ながら達成できなかった点も明らかにされているので、却って好感を持ち、応援致したく思いました。
- サプライヤーチェーンマネジメントの「サプライヤー選択基準項目の構築」について方向性等分かることありましたら早めにご案内お願い致します。
- コピーペーパーを含め社内使用消耗品までエコ及び環境を考慮されているのには感心しました。商品開発のコンセプトに更に環境商品を重視した考えを推進したいと考えます。
- 非常に分かりやすく弊社での報告書作りにも参考とさせて頂きたく存じます。なお、4頁「人の軸＝エコパーソン」の活動内容について情報をいただければ幸甚でございます。
- 自分の企業だけよければという考えは今後の企業社会は適用しないと思いました。御社の企業理念は今後とも大切だと思います。
- 弊社は平成11年にISO14001を認証取得し、私も認証時事務局にて活動しておりましたが、非常に分かりやすい環境報告書でした。
- 大前提は「お客様の為に」を理念に企業運営にあたり、その経過で環境の為、社会の為にも、自社利益を確固たる形にしなが、社会に貢献していきたいというスタンスは取引企業として、安心・信頼が出来る企業であることを再認識しました。
- 購入する際の選択基準ともなっている環境対応のグリーン商品ですが、商品アイテム数が毎号増えているなか、売上拡大に向かってどのように推移しているのか全体のグリーン商品の売上高を知りたいと思いました。
- お客様への請求書にも、グリーン商品購入比率が分かるようになってきている点など、様々な工夫を知ることが出来ました。
- 貴社の取り組みが分かるだけでなく、私自身の知識をつけるためにも非常に勉強になりました。



この印刷物は環境にやさしい植物性大豆油インキを使用しています。



古紙70%配合 100%再生紙を使用

1. トップメッセージ	02
-------------	----

2. トピックス

企業概要	04
アスクルの事業概要と環境負荷	05
2005年5月期(2004年5月21日～2005年5月20日)の 環境目標の達成状況	06

3. お客様サービスとしての環境活動

紙製品に関する調達方針について	08
FSC (CoC) 認証取得について	08
コピーペーパーのグリーン調達	09
森林管理問題解決への取り組み	09
環境ラベルとグリーン商品の拡大について	10
回収サービスの取り組み状況	11

4. お取引先様への環境活動

環境情報の発信	12
環境コミュニケーション	13

5. アスクル社内の環境活動

環境マネジメントシステムの運用について	14
ISO14001定期審査の結果報告	16
環境法規の遵守状況	18
本社オフィスの環境活動	20
物流センターの環境活動	21
アスクルの社会貢献活動	22

6. データ集	23
---------	----

7. 環境報告書第三者審査

JQA審査報告書	28
----------	----

8. アスクル環境マネジメント活動の足跡	30
----------------------	----

巻末 アンケート	31
アンケート結果のご報告	32

